

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第 1 項
【提出先】	北陸財務局長
【提出日】	2025年 6 月19日
【事業年度】	第124期(自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
【会社名】	株式会社石川製作所
【英訳名】	Ishikawa Seisakusho, Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小長谷 育教
【本店の所在の場所】	石川県白山市福留町200番地
【電話番号】	(076)277-1411 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 企画管理部門長 水野 孝
【最寄りの連絡場所】	石川県白山市福留町200番地
【電話番号】	(076)277-1411 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 企画管理部門長 水野 孝
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町 2 番 1 号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第120期	第121期	第122期	第123期	第124期
決算年月	2021年 3 月	2022年 3 月	2023年 3 月	2024年 3 月	2025年 3 月
売上高 (百万円)	11,383	12,079	12,593	13,598	16,203
経常利益 (百万円)	160	199	217	253	646
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	124	143	167	251	423
包括利益 (百万円)	261	209	203	537	482
純資産額 (百万円)	3,853	4,162	4,365	4,903	5,385
総資産額 (百万円)	14,356	16,405	15,032	16,799	20,839
1 株当たり純資産額 (円)	604.09	652.52	684.41	768.68	844.33
1 株当たり当期純利益 (円)	19.45	22.48	26.19	39.50	66.41
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	26.8	25.4	29.0	29.2	25.8
自己資本利益率 (%)	3.3	3.4	3.8	5.1	7.9
株価収益率 (倍)	91.3	65.3	53.3	35.3	20.0
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	198	1,889	1,285	1,895	2,165
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	182	440	158	370	585
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	102	1,378	920	2,093	2,729
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	850	921	1,128	954	932
従業員数 (人)	534	517	510	511	526

- (注) 1 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
2 従業員数は、就業人員数を表示しております。
3 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年 3 月31日)等を第121期の期首から適用しており、第121期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第120期	第121期	第122期	第123期	第124期
決算年月	2021年 3 月	2022年 3 月	2023年 3 月	2024年 3 月	2025年 3 月
売上高 (百万円)	7,117	7,734	8,275	9,324	10,064
経常利益 (百万円)	72	92	87	93	224
当期純利益 (百万円)	85	91	96	155	143
資本金 (百万円)	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
発行済株式総数 (千株)	6,385	6,385	6,385	6,385	6,385
純資産額 (百万円)	2,757	3,004	3,136	3,575	3,778
総資産額 (百万円)	9,667	10,795	10,321	11,011	11,881
1株当たり純資産額 (円)	432.33	470.94	491.64	560.49	592.38
1株当たり配当額 (円)					10.00
(1株当たり中間配当額) (円)	()	()	()	()	()
1株当たり当期純利益 (円)	13.34	14.33	15.05	24.37	22.56
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	28.5	27.8	30.4	32.5	31.8
自己資本利益率 (%)	3.2	3.0	3.1	4.3	3.8
株価収益率 (倍)	133.1	102.5	92.8	57.2	58.9
配当性向 (%)					44.3
従業員数 (人)	256	254	251	253	261
株主総利回り (%)	144.0	119.1	113.2	113.0	108.7
(比較指標:配当込みTOPIX) (%)	(142.1)	(145.0)	(153.4)	(216.8)	(213.4)
最高株価 (円)	2,063	1,937	1,894	1,480	2,147
最低株価 (円)	1,102	1,293	1,302	1,002	1,222

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
- 2 従業員数は、就業人員数を表示しております。
- 3 2025年3月期の1株当たり配当額10円00銭については、2025年6月20日開催予定の定時株主総会の決議事項となっております。
- 4 最高・最低株価は、2022年4月3日以前は東京証券取引所市場第一部におけるものであり、2022年4月4日以降は東京証券取引所スタンダード市場におけるものであります。
- 5 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第121期の期首から適用しており、第121期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

2 【沿革】

1921年10月	創業者直山与二、金沢市に石井鉄工所を創立し、繊維機械の部品製作をはじめる。
1937年 1 月	株式会社組織にあらため、森本工場を建設。
1938年 7 月	株式会社石川製作所に社名変更。戦時中海軍水中兵器を製造。
1945年～1952年	戦後、繊維機械の生産を再開、紡績機械コンプリーメーカーの体制を確立。
1951年10月	金沢投資金融株式会社(現・株式会社イッセイ、現・連結子会社)を設立。
1953年 1 月	大阪証券取引所市場第一部に株式上場。
1954年 3 月	防衛機器製造の事業許可をうけ、東京研究所を設置。
1961年 9 月	東京証券取引所市場第一部に、同年10月名古屋証券取引所市場第一部に株式上場。
1962年～1963年	欧州繊維機械メーカーと技術提携し、自社開発の高速合撚糸機とともに合織機械の生産を開始。
1964年 3 月	S & S 社(米国)と段ボール製函印刷機械の業務提携を締結、紙工機械の生産を開始。
1965年 3 月	ドレーパー社(米国)とシャトルレス織機の技術提携により、レピア織機の生産を開始。
1969年 4 月	石川県松任市(現・白山市)に松任工場を新設。
1973年11月	創業者直山与二死去、野原重美が社長に就任。
1974年 1 月	第 1 回転換社債10億円を発行。
1980年以降	海外メーカーとの技術提携を順次解消し、自社開発路線を歩む。
1985年 5 月	第 2 回転換社債25億円を発行。
1985年12月	フルオートセット段ボール製函印刷機ACSYS FG-250を開発。
1987年10月	第 3 回転換社債30億円を発行。
1989年10月	第 4 回転換社債50億円を発行。
1990年 6 月	野原重美が会長に、直山泰が社長に就任。
1990年 7 月	エフエフヴィオードナンス社(スウェーデン)と新型地雷の技術提携。
1991年 4 月	株式会社イシメックス(現・連結子会社)を設立。
1997年 6 月	繊維機械、紙工機械でISO9001取得。
1999年11月	高速電子チップ外觀検査装置IPSを開発。
2002年12月	松任工場に機械・組立工場を新設、森本工場を移転統合する。
2003年 5 月	固定式段ボール製函印刷機FX- 1 を開発。
2009年 4 月	直山泰が相談役に、竹田徳文が社長に就任。
2009年12月	段ボール製函印刷機WIN ZR400を開発。
2010年 7 月	段ボール製函印刷機WIN GR350を開発。
2013年 3 月	第三者割当による新株式12,700千株を発行。
2015年 4 月	竹田徳文が相談役に、小長谷育教が社長に就任。
2016年 7 月	段ボール製函印刷機WIN MR250を開発。
2016年 8 月	資本金、資本準備金及び利益準備金の額の減少並びに剰余金の処分により欠損を填補。
2016年10月	普通株式10株につき 1 株の割合で株式を併合。
2017年 5 月	東京研究所、東京営業所を新宿区神楽坂へ移転。
2017年 8 月	関東航空計器株式会社(神奈川県藤沢市)の全株式を取得し、連結子会社化。
2019年 5 月	段ボール製函印刷機WIN SR350を開発。
2021年10月	創業100周年を迎える。
2022年 4 月	東京証券取引所の市場区分見直しに伴い、東京証券取引所スタンダード市場に移行。
2023年10月	東京営業所を杉並区上高井戸へ移転。

3 【事業の内容】

当社グループは、当社、子会社3社(関東航空計器㈱、㈱イッセイ、㈱イシメックス)及びその他の関係会社レンゴー㈱の計5社で構成され、段ボール製函印刷機械等の「紙工機械」、機雷、航空機用電子機器等の「防衛機器」、他社から各種機械の生産を受託する「受託生産」の製造販売を主な事業内容としております。

当社グループの事業に係わる位置づけは次のとおりであります。なお、セグメントと同一の区分であります。

(紙工機械)

当社がレンゴー㈱などへ製造販売するほか、㈱イッセイは紙工機械の機械加工部品の製造の一部を行っております。㈱イシメックスは紙工機械に内蔵する制御盤等電装関係部品を製造しております。

(防衛機器)

当社及び関東航空計器㈱が製造販売するほか、㈱イッセイは防衛機器の機械加工部品の製造の一部を行っております。㈱イシメックスは防衛機器に内蔵する制御盤等電装関係部品を製造しております。

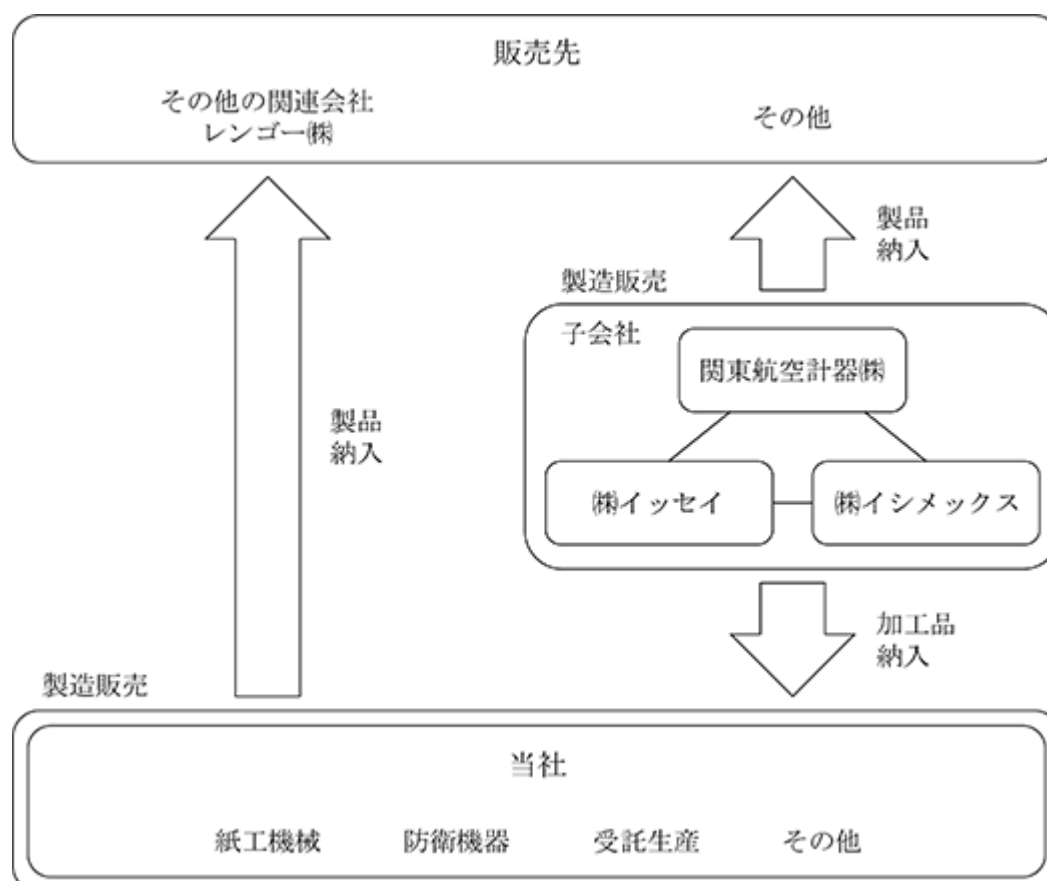
(受託生産)

当社が生産を受託するほか、㈱イッセイは各種機械の機械加工部品の製造の一部を行っております。㈱イシメックスは各種機械に内蔵する制御盤等電装関係部品を製造しております。

(その他)

当社及び関東航空計器㈱が製造販売するほか、㈱イッセイは各種機械の機械加工部品の製造の一部を主に行っております。㈱イシメックスは各種機械に内蔵する制御盤等電装関係部品を製造しております。

以上の事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な 事業の 内容	議決権の 所有 (被所有) 割合(%)	関係内容
(連結子会社) 関東航空計器(株)	神奈川県 藤沢市	480	防衛機器、 その他	100.0	当社は貸付をしております。 役員の兼任……有
(連結子会社) (株)イッセイ	石川県 金沢市	45	紙工機械、 防衛機器、 受託生産、 その他	100.0	当社機械加工部品の製造の一部を主に委託して おります。 役員の兼任……有
(連結子会社) (株)イシメックス	石川県 白山市	40	紙工機械、 防衛機器、 受託生産、 その他	100.0	当社各種機械の制御盤等電装関係部品の製造を 主に委託しております。 当社は貸付をしております。 当社は本社工場等の建物を賃借しております。 役員の兼任……有
(その他の関係会社) レンゴー(株)	大阪市 北区	31,066	紙工機械	(20.1)	当社紙工機械の販売先であります。 役員の兼任……有

- (注) 1 主要な事業の内容欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。
2 その他の関係会社レンゴー(株)は有価証券報告書の提出会社であります。
3 連結子会社関東航空計器(株)は特定子会社であります。
また、同社については、売上高の連結売上高に占める割合が100分の10を超えております。

主要な損益情報等

売上高	5,643百万円
経常利益	406百万円
当期純利益	294百万円
純資産額	1,164百万円
総資産額	8,463百万円

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2025年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)	セグメントの名称	従業員数(人)
紙工機械	125	その他	28
防衛機器	339	全社(共通)	16
受託生産	18	合計	526

- (注) 1 従業員数は、当社グループ外からの出向者を含み、当社グループ外への出向者及び休職者を除く就業人員であります。
- 2 生産に携わる従業員は機能的に一体となって紙工機械、防衛機器、受託生産及びその他のセグメントにおける製造品を生産しており、生産体制に応じて移動しますので、人数は各セグメントにおける生産実績を参考にして各々のセグメントに按分しております。

(2) 提出会社の状況

2025年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
261	41.5	15.4	5,944

セグメントの名称	従業員数(人)	セグメントの名称	従業員数(人)
紙工機械	102	その他	10
防衛機器	132	全社(共通)	5
受託生産	12	合計	261

- (注) 1 従業員数は、他社からの出向者を含み、他社への出向者及び休職者を除く就業人員であります。
- 2 平均年間給与は、賞与及び基準外手当を含んでおります。
- 3 生産に携わる従業員は機能的に一体となって紙工機械、防衛機器、受託生産及びその他のセグメントにおける製造品を生産しており、生産体制に応じて移動しますので、人数は各セグメントにおける生産実績を参考にして各々のセグメントに按分しております。

(3) 労働組合の状況

提出会社の労働組合はJAM石川製作所労働組合と称し、JAMに加盟しております。2025年3月31日現在の組合員数は153人です。

連結子会社につきましては、関東航空計器㈱の労働組合はJAM関東航空計器労働組合と称し、JAMに加盟しております。㈱イッセイ及び㈱イシメックスにおいては労働組合は組織されていません。

なお、労使関係については円滑な関係にあり、特記すべき事項はありません。

(4) 管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率

提出会社

当事業年度	
管理職に占める女性労働者の割合(%) (注1)	男性労働者の育児休業取得率(%) (注1)
9.2	85.7

- (注) 1 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。

連結子会社

名称	当事業年度	
	管理職に占める女性労働者の割合(%) (注1)	男性労働者の育児休業取得率(%) (注1)
関東航空計器㈱	5.9	100.0

- (注) 1 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。
- 2 上記 連結子会社については、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき公表している会社のみ記載しております。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

当社グループは継続的かつ安定的な配当を行う上で収益力の強化を課題としております。当社グループは安定した経営基盤の確立のため、顧客のニーズに対応する製品開発を通じた受注の拡大、経営の効率化による原価低減の徹底、技術の研鑽と継承による品質向上に努め、収益力の強化を図り配当を通じた継続的な株主への利益還元を目指してまいります。

2 【サステナビリティに関する考え方及び取組】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1)サステナビリティ全般に関するガバナンス及びリスク管理

当社グループは、当社で製造しております段ボール製函印刷機を販売することを通じて持続可能な循環型社会の形成に寄与するとともに、当社グループの持続的な成長が地域社会の経済に貢献できるように努めております。当社は、経営の重要な意思決定及び業務執行の監督を行う取締役会を定期的に開催するとともに、迅速で柔軟な事業判断を決定するため、取締役及び事業責任者が出席する経営会議を随時開催しております。また、職務執行状況等の監査のため、取締役会から独立した監査役及び監査役会を設置するとともに、代表取締役社長直轄の監査室を設置して内部監査を実施し、公正かつ適切な企業活動を推進しております。

リスク管理においては、監査室において、当社グループの損失の危険に関して内部監査を実施し、損害を及ぼす恐れのあるリスク情報の早期発見と、その発現への対応に努めております。

(2)人材の多様性の確保を含む人材育成の方針及び社内環境整備に関する方針

当社グループにおいては、従業員が心身ともに健康であるとともに、個々の能力を最大限に発揮できる職場環境整備に努めております。また、仕事と家庭の両立ができる職場環境整備を進めております。

一方で、管理職層の女性従業員が育成されていないことを当社グループの課題として認識しております。女性従業員に対し、キャリア意識の向上や職種・職域の拡大等を目的とした研修の受講を促し、次世代リーダーを積極的に育成するとともに、女性活躍推進に関する外部の啓発セミナーや男女雇用機会均等法及びハラスメント防止等に関する研修の受講を促しコンプライアンスの徹底とともに女性活躍推進に関する意識向上を図っております。

当社においては、人材の育成及び社内環境整備に関する方針に係る指標について、次の指標を用いております。当社においては、関連する指標のデータ管理とともに、具体的な取組みが行われているものの、連結グループに属する全ての会社では行われておりません。このため、当該指標に関する目標及び実績は、提出会社のものを記載しております。

指標	目標	実績（当事業年度）
管理職に占める女性労働者の割合	2027年3月31日までに10%	9.2%

3 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクは、以下のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 製品の不良発生リスクについて

リスクの内容及び当該リスクが顕在化した場合に経営成績等の状況に与える影響

当社グループは製造業を営んでおり、品質管理は安全管理に次いで重要と考えております。当社グループは製品の品質管理の徹底に努めておりますが、製品に不良が生じた場合、補修や代替品に係る追加費用が発生する可能性があります。また、販売先において製品不良による事故が生じた場合、人的・物的損害又は休業損失に係る損害賠償責任が発生するリスクが想定され、経営成績等の状況に影響を与える可能性があります。

当該リスクが顕在化する可能性の程度や時期

当社グループの製品は受注生産であり、顧客によって仕様が異なる場合が多いため、同型製品の大量生産を行っている製造業と比較して、確率的・統計的に製品不良の発生可能性や時期を見積ることは困難であると考えております。

当該リスクへの対応策

当社は品質マネジメントシステムに関する国際規格の認証を取得し、顧客満足を目指した確かな物づくりを行うよう取り組みを行っております。また、品質に関する専門部署や会議体を設置し、製品の品質向上に努めております。

製品に起因する損害賠償責任リスクに対しては、製造物賠償責任保険に加入しております。同保険により損害賠償責任のリスクを全て担保することは出来ませんが、保険の補償内容について定期的に検討を行うなど、リスクに備えた対応を行っております。

(2) 株価等の下落リスクについて

リスクの内容及び当該リスクが顕在化した場合に経営成績等の状況に与える影響

当社及び一部の連結子会社では、投資有価証券として上場株式及び非上場株式を保有しております。当社グループが保有する上場株式について、景気後退等により一定以上株価が下落した場合、特別損失として投資有価証券評価損を計上することとなります。

また、当社及び一部の連結子会社では、従業員の退職金の一部について確定給付企業年金制度を採用しており、年金資産の運用を外部機関に委託しております。株価等が下落することにより委託先における年金資産の運用状況が悪化した場合、退職給付費用が増加する可能性があります。

当該リスクが顕在化する可能性の程度や時期

景気の変動は、企業活動の結果のほか、国内外の政治動向や自然災害等の様々な外部要因の影響を受けるため、当該リスクが顕在化する可能性の程度や時期を見通すことは困難であります。

当該リスクへの対応策

保有株式の株価下落リスクについては、定期的に株価を観察し、株価下落の兆候が見られる場合は経営層に適時報告を行っております。株価の下落が一定以上続く場合は、減損検討ライン(下落率30%)または強制評価減ライン(下落率50%)に至る可能性及び回復可能性について検討を行い、リスクの受容許容量を考慮したうえで早期に株式売却することも検討するなど、経営成績等に与える影響を最小限に抑える対策を行っております。

また、年金資産の運用状況悪化リスクについては、年金資産の運用商品の選択にあたり景気変動リスクの影響を受けにくい安定型商品を中心とすることにより、運用リスクを小さくする対策を行っております。

4 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ(当社及び連結子会社)の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー(以下、「経営成績等」という。)の状況の概要は次のとおりであります。

経営成績の状況

当社グループの当連結会計年度における受注高は212億94百万円(前連結会計年度比6.7%減)となり、売上高は162億3百万円(前連結会計年度比19.2%増)となりました。

損益面におきましては、売上高の増加に伴い、営業利益は6億92百万円(前連結会計年度比173.1%増)となりました。経常利益につきましては、6億46百万円(前連結会計年度比154.7%増)となり、親会社株主に帰属する当期純利益は、4億23百万円(前連結会計年度比68.1%増)となりました。

財政状態の状況

a. 資産

流動資産は前連結会計年度末に比べ35億44百万円(28.5%)増加し、159億92百万円となりました。これは主に契約資産が22億45百万円、売掛金が7億99百万円それぞれ増加したことによります。

固定資産は前連結会計年度末に比べ4億95百万円(11.4%)増加し、48億46百万円となりました。これは主に固定資産の取得により、有形固定資産が2億70百万円、無形固定資産が98百万円、投資有価証券の時価上昇により、投資その他の資産が1億26百万円それぞれ増加したことによります。

この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べ40億39百万円(24.0%)増加し、208億39百万円となりました。

b. 負債

流動負債は前連結会計年度末に比べ28億32百万円(27.5%)増加し、131億36百万円となりました。これは主に短期借入金が20億70百万円、電子記録債務が3億67百万円、未払法人税等が1億77百万円それぞれ増加したことによります。

固定負債は前連結会計年度末に比べ7億25百万円(45.5%)増加し、23億17百万円となりました。これは主に長期借入金が6億33百万円増加したことによります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べ35億57百万円(29.9%)増加し、154億53百万円となりました。

c. 純資産

純資産合計は前連結会計年度末に比べ4億82百万円(9.8%)増加し、53億85百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する当期純利益4億23百万円を計上したこと等により、利益剰余金が増加したことによります。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)の期末残高は、前連結会計年度末に比べ22百万円減少(前連結会計年度は1億73百万円減少)し、9億32百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

a. 営業活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度における営業活動による資金の減少は21億65百万円(前連結会計年度は18億95百万円の減少)となりました。これは主に契約資産の増加額22億45百万円、売上債権の増加額8億円により資金の減少となったことによります。

b. 投資活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度における投資活動による資金の減少は5億85百万円(前連結会計年度は3億70百万円の減少)となりました。これは主に固定資産取得による支出5億88百万円により資金の減少があったことによります。

c. 財務活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度における財務活動による資金の増加は27億29百万円(前連結会計年度は20億93百万円の増加)となりました。これは主に短期借入金の純増加額20億70百万円、長期借入れによる収入10億円により資金の増加があったことによります。

生産、受注及び販売の実績

当連結会計年度における生産、受注及び販売の実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

a. 生産実績

セグメントの名称	金額(千円)	前期比増減(%)
紙工機械	3,021,494	11.1
防衛機器	11,093,604	38.6
受託生産	1,286,218	16.0
その他	802,580	20.5
合計	16,203,896	19.2

(注) 金額は販売価格で表示しております。
なお、セグメント間取引については、相殺消去しております。

b. 受注実績

セグメントの名称	受注高(千円)	前期比増減(%)	受注残高(千円)	前期比増減(%)
紙工機械	2,550,920	18.5	1,448,217	24.5
防衛機器	16,995,931	1.6	27,250,038	27.6
受託生産	1,067,054	36.0	195,806	52.8
その他	680,467	9.3	227,437	34.9
合計	21,294,372	6.7	29,121,498	21.2

c. 販売実績

セグメントの名称	金額(千円)	前期比増減(%)
紙工機械	3,021,494	11.1
防衛機器	11,093,604	38.6
受託生産	1,286,218	16.0
その他	802,580	20.5
合計	16,203,896	19.2

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
2 主な相手先の販売実績及び総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
防衛省	5,696,607	41.9	7,684,712	47.4
三菱重工業株式会社	1,055,666	7.8	1,797,146	11.1

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。
なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当連結会計年度における当社グループは、さらなる安定的な収益確保のため、従業員の技術の研鑽と継承を徹底し、作業効率化や無駄なコストの削減により原価低減を図るとともに、製品の信頼を高めることにより販売拡大を目指してまいります。

当社グループのセグメントごとの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。
なお、文中のセグメント利益は営業利益ベースによる数値であります。セグメント情報の詳細については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項 (セグメント情報等)」をご参照ください。

紙工機械

受注高は25億50百万円(前連結会計年度比18.5%減)、売上高は30億21百万円(前連結会計年度比11.1%減)となりました。また、セグメント損失は66百万円(前連結会計年度はセグメント損失1億42百万円)となりました。

防衛機器

受注高は169億95百万円(前連結会計年度比1.6%減)、売上高は110億93百万円(前連結会計年度比38.6%増)、セグメント利益は13億1百万円(前連結会計年度比64.8%増)となりました。

受託生産

受注高は10億67百万円(前連結会計年度比36.0%減)、売上高は12億86百万円(前連結会計年度比16.0%減)、セグメント利益は78百万円(前連結会計年度比27.7%減)となりました。

その他

受注高は6億80百万円(前連結会計年度比9.3%減)、売上高は8億2百万円(前連結会計年度比20.5%増)、セグメント利益は1億69百万円(前連結会計年度比49.9%増)となりました。

キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当社グループの資金需要は、主に材料の購入代金、人件費・諸経費等の運転資金のほか、設備の維持・更新等にかかる費用であります。当社グループでは、これらの資金を主に金融機関からの借入により調達しております。借入に際しては、効率的な調達を行うよう努めております。

当連結会計年度末における借入金及びリース債務を含む有利子負債の残高は90億83百万円となっております。また、当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は9億32百万円となっております。

キャッシュ・フローの状況の分析については、「第2 事業の状況 4 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」をご参照ください。

重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループは、連結財務諸表の作成にあたって、経営成績等に影響を与える会計上の見積りを行っております。会計上の見積りは過去の実績値や最新の状況を踏まえて合理的と判断された前提に基づいており、経営者による検討を継続的に行っておりますが、将来に関する不確実性を伴うため実際の結果とは異なる場合があります。

連結財務諸表の作成にあたって用いた会計上の見積り及び仮定のうち、重要なものは「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項 (重要な会計上の見積り)」に記載しております。

5 【重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

当社グループは、多様化するユーザーのニーズに応えるべく、新製品の研究開発を行っております。当連結会計年度におけるグループ全体の研究開発費は393百万円であります。

紙工機械では、段ボール製函印刷機械の精度、生産性の更なる向上を図っております。研究開発費は199百万円であります。

防衛機器では、防衛省と緊密な連携のもとに研究開発を行っております。研究開発費は193百万円であります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度において、当社グループ(当社及び連結子会社)は、投資内容を厳選し、設備の更新等645,243千円の設備投資を行いました。セグメント別の内訳は、紙工機械部門130,497千円、防衛機器部門417,050千円、受託生産部門73,337千円、その他の部門24,359千円であります。

2 【主要な設備の状況】

当社グループ(当社及び連結子会社)における主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) 提出会社

2025年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (人)
			建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
本社 (石川県白山市)	紙工機械 防衛機器 受託生産 その他	生産設備、 販売設備、 全社的 管理業務	804,103	495,561	275,579 (54,293)	751	58,688	1,634,685	222
東京研究所 (東京都新宿区)	防衛機器	研究開発 設備	13,556				3,123	16,679	28
東京営業所 (東京都杉並区)	紙工機械	販売設備	1,026				634	1,660	7
大阪営業所 (大阪市北区)	紙工機械	製品保守 業務							4
厚生施設 (1ヶ所)		厚生関係	4,138		10,774 (72)			14,913	

(2) 国内子会社

2025年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメン トの名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員 数(人)
				建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
関東航空計器㈱	本社・工場 (神奈川県 藤沢市)	防衛機器 その他	電子機器 加工組立 設備	94,583	42,915	54,699 (4,479)		69,702	261,900	194
㈱イッセイ	本社・工場 (石川県 金沢市)	紙工機械 防衛機器 受託生産 その他	機械部品 加工組立 設備	19,940	23,478	103,680 (2,081)	21,166	1,602	169,868	28
㈱イシメックス	本社・工場 (石川県 白山市)	紙工機械 防衛機器 受託生産 その他	電装部品 加工組立 設備	261,841	20,383	60,596 (2,130)	69,775	6,741	419,338	43

(注) 上記の他、主要な設備のうち連結子会社以外からの賃借又はリース設備として、以下のものがあります。

(1) 提出会社

2025年3月31日現在

事業所名(所在地)	セグメント の名称	賃借又は リース設備	賃借料又は リース料(千円)	摘要
東京研究所(東京都新宿区)	防衛機器	建物	33,734	年間賃借料
東京営業所(東京都杉並区)	紙工機械	建物	4,948	年間賃借料
大阪営業所(大阪市北区)	紙工機械	建物	1,954	年間賃借料
合計			40,637	

3 【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、除却等の計画は以下のとおりであります。

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資予定額		資金調達方法	着手年月	完了予定 年月	完成後の 増加能力
				総額 (千円)	既支払額 (千円)				
提出 会社	本社 (石川県 白山市)	全社	販売管理 生産管理 システム	306,100	283,260	借入金	2021年 12月	2025年 8月	(注)

(注) 完成後の増加能力については、計数的把握が困難なため記載を省略しております。

(2) 重要な設備の除却等

重要な設備等の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	11,000,000
計	11,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2025年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2025年6月19日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	6,385,972	6,385,972	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	6,385,972	6,385,972		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

当社はストックオプション制度を採用していません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2016年10月1日 (注)	57,473	6,385		2,000,000		

(注) 普通株式10株につき1株の割合で株式を併合したことによる発行済株式総数の減少であります。

(5) 【所有者別状況】

2025年3月31日現在

2023年3月31日現在

区分	株式の状況(1 単元の株式数100株)								単元未満株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)		9	31	77	30	30	6,996	7,173	
所有株式数 (単元)		6,832	2,216	13,989	4,054	114	36,350	63,555	30,472
所有株式数 の割合(%)		10.7	3.5	22.0	6.4	0.2	57.2	100	

(注) 1 当社保有の自己株式7,166株は、「個人その他」の欄に71単元及び「単元未満株式の状況」の欄に66株を各々含めて表示してあります。

2 「その他の法人」の欄には証券保管振替機構名義の株式2単元が含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2025年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
レンゴー株式会社	大阪府大阪市北区中之島2丁目2番7号	1,277	20.02
日本生命保険相互会社	大阪府大阪市中央区今橋3丁目5番12号	196	3.08
石川フレンド会	石川県白山市福留町200番地	158	2.49
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2丁目1番1号	153	2.41
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区赤坂1丁目8番1号	140	2.19
BNYM SA/NV FOR BNYM FOR BNYM GCM CLIENT ACCTS M ILM FE (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	2 KING EDWARD STREET, LONDON EC1A 1HQ UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内1丁目4番5号)	103	1.63
UBS AG SINGAPORE (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	AESCHENVORSTADT 1, CH-4002 BASEL SWITZERLAND (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	100	1.57
直山 泰	石川県金沢市	92	1.45
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2番10号	82	1.29
清水 慶治	京都府京都市下京区	74	1.16
計		2,379	37.31

(注) 1. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

- 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 140千株
2. 2022年7月6日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、モルガン・スタンレーMUF G証券株式会社及びその共同保有者であるMorgan Stanley & Co. Internationalplc及びMorgan Stanley & Co.LLCが2022年6月30日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2025年3月31日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。なお、その変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
モルガン・スタンレーMUF G証券株式会社	東京都千代田区大手町1丁目9番7号	27	0.44
Morgan Stanley & Co. Internationalplc	25 Cabot Square, Canary Wharf, London E14 4QA, United Kingdom	168	2.63
Morgan Stanley & Co.LLC	c/o The Corporation Trust Company (DE) Corporation Trust Center, 1209 Orange Street Wilmington, DE 19801 United States		

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2025年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,348,400	63,484	
単元未満株式	普通株式 30,472		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	6,385,972		
総株主の議決権		63,484	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」の欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が200株(議決権2個)含まれております。

2 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式66株が含まれています。

【自己株式等】

2025年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社石川製作所	石川県白山市福留町200番地	7,100		7,100	0.11
計		7,100		7,100	0.11

(8) 【役員・従業員株式所有制度の内容】

(取締役に対する株式報酬制度)

当社は、取締役の報酬と当社の株式価値との連動性をより明確にし、取締役が株価の変動による利益・リスクを株主の皆様と共有することで、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として、2025年6月20日開催予定の定時株主総会の議案(決議事項)として、「取締役に対する株式報酬制度導入の件」を提案しております。当該議案が承認可決されますと、当社の取締役(非常勤取締役及び社外取締役を除きます。)を対象に、新たに信託を用いた株式報酬制度が導入される予定であります。当該導入予定の制度は、「(4) 役員の報酬等 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項 a. 方針の内容及び決定方法等」に記載のとおりであります。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	44	78
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における取得自己株式には、2025年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、株式交付、 会社分割に係る移転を行った 取得自己株式				
その他()				
保有自己株式数	7,166		7,166	

(注) 当期間における保有自己株式数には、2025年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題と位置づけており、経営の効率化の推進により収益力の向上、財務体質の強化に努め、継続的かつ安定的な配当を行うことを基本方針としております。

剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当事業年度の剰余金の配当につきましては、継続的な安定配当の基本方針のもと、2025年6月20日開催予定の定時株主総会の議案(決議事項)として、「剰余金の処分の件」を提案しており、当該議案が承認可決されますと、1株当たり10円(うち中間配当金0円)となる予定であります。

内部留保資金の使途につきましては、財務体質の強化、並びに研究開発費用及び設備投資費用として投入していく予定であります。

なお、当社は中間配当を行うことができる旨を定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たりの配当額 (円)
2025年6月20日 定時株主総会(予定)	63,788	10.00

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、経営の透明性の向上とコンプライアンス意識の強化を図ると共に経営環境の変化に迅速に対応できる組織体制を構築することを重要施策と位置づけていることであります。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

a. 取締役会

当社の取締役会は、定期に開催されるほか適宜臨時に開催され、業務執行状況の報告及び重要事項に関する意思決定並びに業務執行状況の監督を行っております。有価証券報告書提出日(2025年6月19日)現在、取締役会は取締役9名(うち社外取締役3名)、監査役3名(うち社外監査役2名)の計12名で構成されており、議長は代表取締役社長の小長谷育教が務めております。

b. 監査役会

当社は監査役会設置会社であり、監査役は取締役会のほか重要な会議に積極的に参加し、取締役及び執行役員の職務執行について監査を行っております。有価証券報告書提出日(2025年6月19日)現在、監査役会は監査役3名(うち社外監査役2名)で構成されており、議長は常勤監査役の岡基淳一が務めております。

c. その他

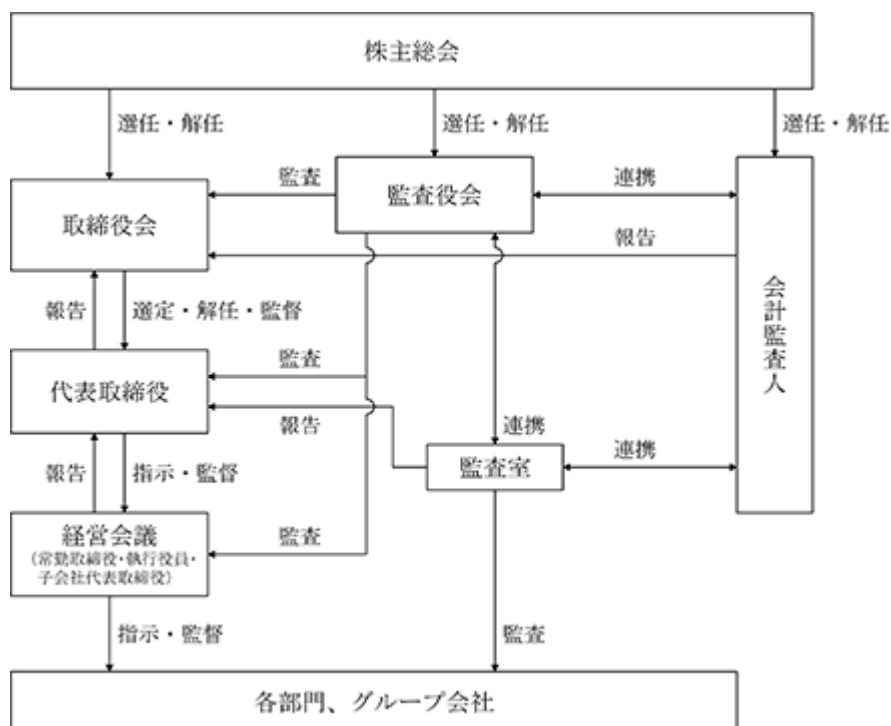
当社は、環境の変化に対する迅速かつ的確な対応と職務執行の効率を図るため、執行役員制度を導入しております。当社の常勤取締役、執行役員及び子会社代表取締役は、当社の経営会議に出席し、職務の執行に係る重要事項の報告や協議を行っております。

上記の構成員である取締役9名、監査役3名及び執行役員6名の氏名については「第4 提出会社の状況 4 コーポレート・ガバナンスの状況等 (2) 役員の状況 役員一覧 a.」に記載のとおりであります。

なお、当社は、2025年6月20日開催予定の定時株主総会の議案(決議事項)として「取締役10名選任の件」及び「監査役1名選任の件」を提案しており、当該議案が承認可決されますと、当社の取締役は10名(うち社外取締役3名)、監査役は3名(うち社外監査役2名)となります。これらの構成員である取締役10名、監査役3名については、後記「第4 提出会社の状況 4 コーポレート・ガバナンスの状況等 (2) 役員の状況 役員一覧 b.」に記載のとおりであります。

当社は、こうした取り組みによって経営監視の体制が有効かつ十分に機能すると判断していることから、当該体制を採用しております。

当社のコーポレート・ガバナンス体制を図に示すと次のとおりであります。



企業統治に関するその他の事項

a. 責任限定契約の内容の概要

当社は会社法第427条第1項に基づき、社外取締役及び社外監査役並びに会計監査人との間において、同法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償責任限度額は、法令が規定する最低限度額であります。

b. 取締役の定数

当社の取締役は、12名以内とする旨を定款で定めております。

c. 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使できる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を、また累積投票によらない旨を定款で定めております。

d. 取締役会で決議できる株主総会決議事項

イ 自己の株式の取得の決定機関

当社は、自己の株式の取得について、経済情勢の変化に対応して経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

ロ 取締役及び監査役の責任免除

当社は、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、同法第423条第1項の責任につき、善意でかつ重大な過失がない場合は、取締役会の決議によって、法令の定める限度額の範囲内で、その責任を免除することができる旨を定款で定めております。

ハ 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うことを目的として、会社法第454条第5項の規定に基づき、取締役会の決議により中間配当をすることができる旨を定款で定めております。

e. 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

f. 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しており、その被保険者の範囲は、当社並びに当社の子会社であります関東航空計器株式会社、株式会社イッセイ、株式会社イシメックスの取締役及び監査役であります。その契約の概要は、被保険者が会社役員として業務につき行った行為に起因して、被保険者に対して損害賠償請求がされたことにより、被保険者が法律上の損害賠償金又は争訟費用を負担することによって生じる損害を填補することとしており、その保険料を全額当社が負担しております。

g. リスク管理体制

当社は、品質・環境に関するリスク、災害・事故等の不測の事態発生に備えて、必要に応じてプロジェクトチームを結成し、そのリスクに対する予防策、発生時の対応方法などを策定のうえ、その対応をしております。また、弁護士とは顧問契約に基づき必要に応じてアドバイスを受けております。

取締役会の活動状況

当事業年度において当社は取締役会を5回開催しており、個々の取締役の出席状況は次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数
小長谷 育教	5回	5回
野口 俊和	5回	5回
福本 出	5回	5回
橋場 良春	5回	4回
辻 清志	5回	5回
水野 孝	4回	4回
坂本 滋	1回	1回
中上 隆臣	1回	1回
前田 盛明	5回	5回
竹森 二郎	5回	5回
村上 克宏	5回	4回

- (注) 1. 坂本滋、中上隆臣の両氏は、2024年6月21日開催の定時株主総会の終結の時をもって取締役を退任しておりますので、退任までの期間に開催された取締役会の出席状況を記載しております。
2. 水野孝氏は、2024年6月21日開催の定時株主総会において取締役に就任しておりますので、就任後に開催された取締役会の出席状況を記載しております。
3. 表中の開催回数が異なるのは、就任時期の違いによるものです。

取締役会における主な検討事項は以下のとおりです。

- ・経営の成績及び財務の状況
- ・重要な事業計画の承認
- ・当社及び子会社役員の人事
- ・重要な規定の制定及び改廃
- ・重要な契約の締結
- ・重要な財産の処分及び譲受

(2) 【役員の状況】

役員一覧

a. 2025年6月19日(有価証券報告書提出日)現在の当社の役員の状況は、以下のとおりであります。

男性12名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役社長	小長谷 育教	1948年10月5日生	1971年4月 伊藤忠商事㈱に入社 1997年7月 同社静岡支店長 2006年6月 当社に入社、執行役員 2006年6月 当社取締役 2007年2月 常務取締役、営業・技術分掌 2009年4月 専務取締役、社長補佐 2010年3月 販売事業部長 2011年4月 事業部門担当 兼 開発部門担当 兼 開発部門長 2015年4月 代表取締役社長(現在)	注3	13,600
専務取締役 社長補佐 兼 開発部門長	野口 俊和	1970年6月16日生	1993年4月 当社に入社 2018年7月 営業統括部長 2020年10月 東京研究所副所長 兼 営業統括部長 2021年1月 執行役員 2021年4月 東京研究所副所長 2022年4月 企画管理部門長 兼 東京研究所副所長 2022年6月 取締役 2023年6月 常務取締役 2024年6月 専務取締役、社長補佐 兼 開発部門長(現在)	注3	6,100
常務取締役 東京研究所所長	福本 出	1957年2月15日生	1979年3月 海上自衛隊入隊 1998年3月 防衛駐在官(トルコ) 2012年3月 海将、海上自衛隊幹部学校長 2014年11月 当社に入社、東京研究所副所長 2015年10月 東京研究所所長(現在) 2016年6月 取締役 2018年6月 常務取締役(現在)	注3	3,500
常務取締役 製造部門長	橋場 良春	1958年1月20日生	1985年5月 当社に入社 2010年9月 特機生産部長 2014年4月 製造副部門長 兼 特機生産部長 2015年10月 執行役員、製造部門長 2016年3月 製造部門長 兼 コンポーネント部長 2016年4月 製造部門長 2016年6月 取締役 2017年4月 製造部門長 兼 特機担当製造部門長 2020年4月 製造部門長 兼 特機担当製造部門長 兼 コンポーネント部長 2020年10月 製造部門長 兼 コンポーネント部長 2024年4月 製造部門長(現在) 2024年6月 常務取締役(現在)	注3	2,700
取締役 産機部門担当	辻 清志	1952年2月26日生	1974年4月 当社に入社 1998年3月 産業機械部担当部長 2008年2月 紙工機械部長 2009年7月 紙工機械副部門長 兼 紙工機械部長 2010年3月 営業部門長 兼 紙工営業部長 2011年4月 執行役員 2011年4月 事業部門長 2015年6月 取締役(現在) 2022年10月 産機部門長 2023年10月 産機部門担当(現在)	注3	3,400
取締役 企画管理部門長	水野 孝	1958年9月5日生	1981年4月 当社に入社 2004年3月 原価管理部長 2011年4月 企画開発部長 2014年4月 執行役員 2016年7月 経営企画部長 2021年7月 企画管理副部門長 兼 経営企画部長 2024年6月 取締役、企画管理部門長(現在)	注3	2,200

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役	前田 盛明	1950年 4 月12日生	1973年 4 月 2003年 6 月 2007年 4 月 2011年 4 月 2013年 4 月 2013年 6 月 2014年 4 月 2015年 4 月 2019年 4 月 2025年 3 月	レンゴー㈱)に入社 同社取締役 同社取締役 兼 常務執行役員 同社取締役 兼 専務執行役員 同社代表取締役 兼 副社長執行役員 コーポレート部門統轄 当社取締役(現在) レンゴー㈱代表取締役 兼 副社長執行役員 社長補佐 兼 コーポレート部門統轄 同社代表取締役 兼 副社長執行役員 社長補佐 兼 コーポレートシステムＣＯＯ 同社代表取締役 兼 副社長執行役員 社長補佐 兼 コーポレート部門統轄 同社取締役 特命事項担当(現在)	注 3	
取締役	竹森 二郎	1948年 1 月13日生	1971年 4 月 2001年 6 月 2004年 4 月 2004年 6 月 2006年 6 月 2016年 6 月	伊藤忠商事㈱)に入社 同社執行役員 プラント・プロジェクト部門長 同社常務執行役員 機械カンパニープレジデント 同社代表取締役常務取締役 機械カンパニープレジデント ㈱アイ・ロジスティクス(現 伊藤忠ロジスティクス㈱)代表取締役社長 当社取締役(現在)	注 3	
取締役	村上 克宏	1952年10月19日生	1977年 4 月 2002年 5 月 2003年 6 月 2005年 6 月 2007年 6 月 2016年11月 2017年 6 月 2018年10月 2019年10月	㈱日本興業銀行(現 ㈱みずほ銀行)入行 ㈱ジェイ・エム・エス入社 同社経営企画部長 同社取締役 総合企画統括部長 同社常務取締役 経営管理統括部長 同社専務取締役 A I メカテック㈱常務取締役 管理本部本部長 当社取締役(現在) A I メカテック㈱取締役 兼 執行役員常務(C F O) 兼 経営サポート本部長 同社取締役 兼 執行役員専務(C F O) 兼 経営サポート本部長	注 3	
常勤監査役	岡基 淳一	1954年 3 月11日生	1974年 4 月 2006年 4 月 2007年 4 月 2009年 4 月 2011年 4 月 2011年 4 月 2015年10月 2017年 4 月 2017年 6 月	当社に入社 工作部長 特機生産部長 特機部門長 執行役員 製造部門長 特機担当製造部門長 兼 特機生産部長 企画管理部部門長付 常勤監査役(現在)	注 4	6,100
監査役	松本 哲哉	1966年 9 月26日生	2006年10月 2006年10月 2013年 4 月 2014年 4 月 2017年12月 2017年12月	弁護士登録 山崎法律事務所入所 金沢弁護士会監事 金沢弁護士会副会長 当社監査役(現在) 山崎法律事務所所長(現在)	注 5	
監査役	荒井 智弘	1955年 5 月21日生	1974年 4 月 2015年 7 月 2016年 8 月 2020年 6 月	金沢国税局入局 金沢国税局金沢税務署長 荒井税理士事務所開設(現在) 当社監査役(現在)	注 5	
計						37,600

(注) 1 取締役 前田盛明氏、竹森二郎氏及び村上克宏氏は、社外取締役であります。

2 監査役 松本哲哉氏及び荒井智弘氏は、社外監査役であります。

3 2024年 3 月期に係る定時株主総会終結の時から2025年 3 月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

4 2021年 3 月期に係る定時株主総会終結の時から2025年 3 月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

5 2024年 3 月期に係る定時株主総会終結の時から2028年 3 月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

6 当社では、環境の変化に対する迅速かつ的確な対応を図るため執行役員制度を導入しております。

執行役員は 6 名で、以下のとおりであります。

堀江 幸司	産機部門長
齋川 浩樹	営業統括部長
判 義則	総務部長
小林 秀樹	経理部長
福本 誠	東京研究所副所長 兼 開発推進部長
山岸 伸治	製造副部門長 兼 特機品質管理部長

- b. 2025年6月20日開催予定の定時株主総会の議案(決議事項)として、「取締役10名選任の件」及び「監査役1名選任の件」を提案しており、当該議案が承認可決されますと、当社の役員の状況は以下のとおりとなる予定であります。

男性13名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役	小長谷 育教	1948年10月5日生	1971年4月 1997年7月 2006年6月 2006年6月 2007年2月 2009年4月 2010年3月 2011年4月 2015年4月	伊藤忠商事(株)に入社 同社静岡支店長 当社に入社、執行役員 当社取締役 常務取締役、営業・技術分掌 専務取締役、社長補佐 販売事業部長 事業部門担当 兼 開発部門担当 兼 開発部門長 代表取締役社長(現在)	注3	13,600
取締役	野口 俊和	1970年6月16日生	1993年4月 2018年7月 2020年10月 2021年1月 2021年4月 2022年4月 2022年6月 2023年6月 2024年6月	当社に入社 営業統括部長 東京研究所副所長 兼 営業統括部長 執行役員 東京研究所副所長 企画管理部門長 兼 東京研究所副所長 取締役 常務取締役 専務取締役、社長補佐 兼 開発部門長(現在)	注3	6,100
取締役	福本 出	1957年2月15日生	1979年3月 1998年3月 2012年3月 2014年11月 2015年10月 2016年6月 2018年6月	海上自衛隊入隊 防衛駐在官(トルコ) 海将、海上自衛隊幹部学校長 当社に入社、東京研究所副所長 東京研究所所長(現在) 取締役 常務取締役(現在)	注3	3,500
取締役	橋場 良春	1958年1月20日生	1985年5月 2010年9月 2014年4月 2015年10月 2016年3月 2016年4月 2016年6月 2017年4月 2020年4月 2020年10月 2024年4月 2024年6月	当社に入社 特機生産部長 製造副部門長 兼 特機生産部長 執行役員、製造部門長 製造部門長 兼 コンポーネント部長 製造部門長 取締役 製造部門長 兼 特機担当製造部門長 製造部門長 兼 特機担当製造部門長 兼 コンポーネント部長 製造部門長 兼 コンポーネント部長 製造部門長(現在) 常務取締役(現在)	注3	2,700
取締役	辻 清志	1952年2月26日生	1974年4月 1998年3月 2008年2月 2009年7月 2010年3月 2011年4月 2011年4月 2015年6月 2022年10月 2023年10月	当社に入社 産業機械部担当部長 紙工機械部長 紙工機械副部門長 兼 紙工機械部長 営業部門長 兼 紙工営業部長 執行役員 事業部門長 取締役(現在) 産機部門長 産機部門担当(現在)	注3	3,400
取締役	水野 孝	1958年9月5日生	1981年4月 2004年3月 2011年4月 2014年4月 2016年7月 2021年7月 2024年6月	当社に入社 原価管理部長 企画開発部長 執行役員 経営企画部長 企画管理副部門長 兼 経営企画部長 取締役、企画管理部門長(現在)	注3	2,200
取締役	長宗 浩	1962年5月14日生	1981年4月 2009年4月 2012年5月 2015年4月 2016年7月 2018年6月 2021年6月 2024年6月 2025年6月	関東航空計器(株)に入社 同社総務部経理グループ長 同社財経部長 同社企画管理部長 同社執行役員、企画管理部長 同社取締役 同社取締役副社長 同社代表取締役社長(現在) 当社取締役(予定)	注3	

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有 株式数 (株)
取締役	三部 廣美	1952年11月6日生	1975年4月 2002年5月 2005年6月 2007年4月 2009年6月 2011年4月 2015年4月 2021年6月 2025年4月 2025年6月	レンゴー㈱に入社 同社人事部長 同社理事 同社執行役員総務部長兼人事部長 同社取締役 兼 執行役員、人事部長 兼 総務部担当 同社取締役 兼 常務執行役員 同社取締役 兼 専務執行役員 同社専務執行役員(上席) 同社副社長執行役員(上席)(現在) 当社取締役(予定)	注3	
取締役	村上 克宏	1952年10月19日生	1977年4月 2002年5月 2003年6月 2005年6月 2007年6月 2016年11月 2017年6月 2018年10月 2019年10月	㈱日本興業銀行(現 ㈱みずほ銀行)入行 ㈱ジェイ・エム・エス入社 同社経営企画部長 同社取締役 総合企画統括部長 同社常務取締役 経営管理統括部長 同社専務取締役 A I メカテック㈱常務取締役 管理本部本部長 当社取締役(現在) A I メカテック㈱取締役 兼 執行役員常務(C F O) 兼 経営サポート本部長 同社取締役 兼 執行役員専務(C F O) 兼 経営サポート本部長	注3	
取締役	笠川 信之	1959年1月6日生	1981年4月 2002年4月 2008年4月 2009年4月 2009年6月 2012年4月 2024年4月 2025年6月	伊藤忠商事㈱に入社 同社航空宇宙部長 同社執行役員 同社航空宇宙・産機システム部門長 当社取締役 伊藤忠アビエーション㈱代表取締役社長 同社取締役会長(現在) 当社取締役(予定)	注3	
監査役	唐木 繁	1958年6月5日生	1981年4月 2006年12月 2009年9月 2014年4月 2018年7月 2023年6月 2025年6月	当社に入社 設計部長 兼 研究・開発グループ長 開発推進部長 兼 空グループ長 執行役員 東京研究所長付 技術担当 東京研究所長付参与 技術担当(現在) 当社監査役(予定)	注4	100
監査役	松本 哲哉	1966年9月26日生	2006年10月 2006年10月 2013年4月 2014年4月 2017年12月 2017年12月	弁護士登録 山崎法律事務所入所 金沢弁護士会監事 金沢弁護士会副会長 当社監査役(現在) 山崎法律事務所所長(現在)	注5	
監査役	荒井 智弘	1955年5月21日生	1974年4月 2015年7月 2016年8月 2020年6月	金沢国税局入局 金沢国税局金沢税務署長 荒井税理士事務所開設(現在) 当社監査役(現在)	注5	
計						31,600

(注) 1 取締役 三部廣美氏、村上克宏氏及び笠川信之氏は、社外取締役であります。

2 監査役 松本哲哉氏及び荒井智弘氏は、社外監査役であります。

3 2025年3月期に係る定時株主総会終結の時から2026年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

4 2025年3月期に係る定時株主総会終結の時から2029年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

5 2024年3月期に係る定時株主総会終結の時から2028年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

社外役員の状況

- a. 2025年6月19日(有価証券報告書提出日)現在の社外役員の状況は以下のとおりであります。

イ 社外取締役 3名

社外取締役前田盛明氏はレンゴー株式会社(2025年3月31日現在、当社発行済株式の20.02%を所有)の代表取締役兼副社長執行役員社長補佐兼コーポレート部門統轄であります。同社と当社とは営業取引があり、同社はその他の関係会社であります。

社外取締役前田盛明氏、竹森二郎氏及び村上克宏氏との直接的な利害関係はありません。

三氏は独立した立場から当社の取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言等の経営監視の役割を担っております。

ロ 社外監査役 2名

社外監査役松本哲哉氏は弁護士であり、当社と顧問契約を締結しております。また、同氏は企業法務について専門的な知見を有し、中立的・客観的な見地からの経営監視の役割を担っております。

社外監査役荒井智弘氏は税理士であり財務及び会計について専門的な知見を有しており、中立的・客観的な見地からの経営監視の役割を担っております。同氏との利害関係はありません。

両氏は、監査役会を通じて内部監査、監査役監査及び会計監査について報告を受け、必要に応じて監査室、他の監査役及び会計監査人との意見交換を行うことにより相互に連携を保っております。

- b. 2025年6月20日開催予定の定時株主総会の議案(決議事項)として、「取締役10名選任の件」及び「監査役1名選任の件」を提案しており、当該議案が承認可決されまると、当社の社外役員の状況は以下のとおりとなる予定であります。

イ 社外取締役 3名

社外取締役三部廣美氏はレンゴー株式会社(2025年3月31日現在、当社発行済株式の20.02%を所有)の副社長執行役員(上席)であります。同社と当社とは営業取引があり、同社はその他の関係会社であります。

社外取締役三部廣美氏、村上克宏氏及び笠川信之氏との直接的な利害関係はありません。

三氏は独立した立場から当社の取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言等の経営監視の役割を担っております。

ロ 社外監査役 2名

社外監査役松本哲哉氏は弁護士であり、当社と顧問契約を締結しております。また、同氏は企業法務について専門的な知見を有し、中立的・客観的な見地からの経営監視の役割を担っております。

社外監査役荒井智弘氏は税理士であり財務及び会計について専門的な知見を有しており、中立的・客観的な見地からの経営監視の役割を担っております。同氏との利害関係はありません。

両氏は、監査役会を通じて内部監査、監査役監査及び会計監査について報告を受け、必要に応じて監査室、他の監査役及び会計監査人との意見交換を行うことにより相互に連携を保っております。

当社は、こうした社外取締役及び社外監査役の体制によって、経営監視の体制が有効かつ十分に機能していると判断しております。

なお、社外取締役又は社外監査役を選任するための提出会社からの独立性に関する基準又は方針については定めておりませんが、選任にあたっては㈱東京証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準等を参考にしております。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

2025年6月19日(有価証券報告書提出日)現在、当社の監査役は3名のうち2名を社外監査役とし、より公正な監査が実施できる体制にしております。社外監査役荒井智弘氏は税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

監査役と会計監査人は、子会社を含めた当社の会計に関する部分について監査を行い、その方法及び結果について適宜意見交換を行って常に的確な監査実施を図り相互に連携しております。

当事業年度において当社は監査役会を7回開催しており、個々の監査役の出席状況については次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数
岡基 淳一	7回	7回
松本 哲哉	7回	7回
荒井 智弘	7回	7回

監査役会における主な検討事項は以下のとおりです。

- ・取締役の業務遂行に対する監査の実施状況
- ・内部統制監査の実施状況
- ・会計監査人の評価
- ・会計監査人の選任
- ・監査法人の監査報酬等の決定に関する同意
- ・事業報告等の記載事項の検討

また、常勤監査役の主な活動は以下のとおりです。

- ・取締役会及び重要な会議への出席
- ・稟議書、契約書、会計帳票等の重要書類の閲覧
- ・会社財産の調査
- ・会計監査人との協議、連携
- ・内部監査の状況聴取、監査室との連携
- ・子会社の調査等

なお、当社は、2025年6月20日開催予定の定時株主総会の議案(決議事項)として、「監査役1名選任の件」を提案しており、当該議案が承認可決されますと、監査役会は監査役3名(うち社外監査役2名)で構成されることになります。

内部監査の状況

当社の内部監査部門といたしましては、代表取締役社長直轄の監査室(1名)を設置しております。監査室は、監査室が作成した監査計画に基づき、当社及び子会社の内部監査を実施し、その結果を代表取締役社長に報告しております。

また、監査室は「内部監査規程」に基づき子会社を含めた内部監査を行い、実施状況について監査役会に報告し、適宜意見交換を行い監査役監査との連携を保つとともに、内部統制プロセスの整備運用状況について会計監査人に報告し、内部統制上の留意事項について適宜意見交換を行うことにより会計監査との連携を保っており、内部監査の実効性を高めることに努めております。

なお、監査室が取締役会に対して直接報告を行う仕組みはありません。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

太陽有限責任監査法人

b. 継続監査期間

1979年以降

c. 業務を執行した公認会計士の氏名

指定有限責任社員	業務執行社員	西村 大司
指定有限責任社員	業務執行社員	南波 洋行

d. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士7名、その他8名であります。

e. 監査法人の選定方針と理由

当社は、監査法人の選定にあたって、会計監査人の専門性、独立性、品質管理体制、監査活動の実施体制、監査報酬の水準等を総合的に勘案しております。

なお、太陽有限責任監査法人は、2023年12月26日付で金融庁から契約の新規の締結に関する業務の停止3か月（2024年1月1日から同年3月31日まで）の処分を受けております。

監査役会は、太陽有限責任監査法人から、業務改善命令に対応した業務改善報告書の説明を受けております。また、監査上の主要な検討事項等についても説明を受け、監査役会として定量化を施した総合評価及び意見交換を行った結果、太陽有限責任監査法人を当社の会計監査人として選任しております。

当社は、これらの結果を踏まえ、太陽有限責任監査法人を会計監査人として適当と認め、同法人を選定しております。

会計監査人が職務上の義務に違反し、または職務を怠り、若しくは会計監査人としてふさわしくない行為等があり、当社の会計監査人であることにつき当社にとって重大な支障があると判断したときには、監査役会は、会社法第340条の規定により会計監査人の解任を決定します。また、そのほか会計監査人であることにつき支障があると判断されるときには、監査役会は、会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定します。

f. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

監査役会は、従前に定めた会計監査人の評価方法に基づき、各監査役による評価シートの提出を受け、定量化を施した総合評価を行っております。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	27,200		26,500	
連結子会社				
計	27,200		26,500	

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬(a.を除く)

該当事項はありません。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

当社の監査法人に対する監査報酬の決定方針は、監査日数及び同規模同業他社の監査報酬水準等を勘案し、監査法人と協議し、かつ、その報酬等については当社監査役会の同意を得た上で決定しております。

e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、取締役、社内関係部署及び会計監査人からの必要な資料の入手や報告の聴取を通じて、会計監査人の監査計画の内容、従前の事業年度における職務執行状況や報酬見積りの算出根拠などを確認し、検討した結果、会計監査人の報酬等につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

a. 方針の内容及び決定方法等

当社は、取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針を定めており、取締役会の決議により決定しております。当社の取締役の報酬は、月例の固定報酬としての基本報酬及び賞与により構成し、個々の取締役の報酬の決定に際しては役位、職責、担当職務、在任年数に応じて他社水準、当社の業績、貢献度、従業員給与の水準等も考慮しながら、総合的に勘案して決定しております。また、基本報酬及び賞与は、金銭によるものとしております。なお、社外取締役の報酬は、独立性を担保する等の観点から基本報酬のみとしております。

また、監査役につきましては監査役会の協議により決定しております。

当社におきましては、取締役会の委任決議に基づき代表取締役社長小長谷育教が取締役の個人別の報酬額の具体的内容を決定しており、その権限の内容は、取締役の基本報酬および賞与の額であります。権限を委任した理由は、当社全体の業績等を勘案しつつ各取締役の担当部門について評価を行うには、代表取締役社長が適していると判断したためであります。また、取締役会は取締役会での委任決議を経ることにより、その内容が当該決定方針に沿うものであると判断しております。

当社の取締役及び監査役の金銭報酬の額は、1991年6月27日開催の第90回定時株主総会の決議により、取締役の報酬額を月額2,000万円以内、監査役の報酬額を月額300万円以内と定めております。当該定時株主総会終結時点の取締役の員数は14名、監査役の員数は3名であります。

当社の取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針及び当社の取締役及び監査役の金銭報酬の額は、上記「(4) 役員の報酬等 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項 a. 方針の内容及び決定方法等」に記載のとおりですが、2025年6月20日開催予定の定時株主総会の議案(決議事項)として提案している「取締役に対する株式報酬制度導入の件」が承認可決されることを条件に、2025年5月8日開催の取締役会において新たな決定方針を決議しております。変更後の決定方針の内容の概要等は以下のとおりであります。

1. 基本方針

当社の取締役の報酬は、基本報酬、業績連動報酬等(賞与)及び非金銭報酬等(株式報酬)により構成し、個々の取締役の報酬の決定に際しては役位、職責、担当職務、在任年数に応じて他社水準、当社の業績、貢献度、従業員給与の水準等も考慮しながら、総合的に勘案して決定するものとしております。また、基本報酬及び賞与は、金銭によるものとしております。なお、社外取締役の報酬は、独立性を担保する等の観点から基本報酬のみとし、非常勤取締役の報酬は、担当する職務の観点から基本報酬のみとしております。

2. 基本報酬の額またはその算定方法に関する方針

基本報酬は、金銭による月例の固定報酬とし、その額は、役位に応じて決定しております。

3. 業績連動報酬等に係る業績指標の内容及び当該業績連動報酬の額または算定方法の決定に関する方針

業績連動報酬は、金銭による賞与とし、その額は、事業年度の業績(主として営業利益、経常利益)などを考慮して、役位に応じて決定しております。支給する場合、当該事業年度の終了後の一定の時期に支給します。

4. 非金銭報酬等の内容及び当該非金銭報酬等の額もしくは数または算定方法の決定に関する方針

非金銭報酬は、株式交付信託による株式報酬とし、交付する株式数は、株主総会で承認された当社が拠出する金銭の上限額及び対象取締役に付与されるポイント総数の上限数の範囲内で、役位に応じて付与されるポイント数に相当する当社株式数としております。交付の時期は、対象取締役の退任後の一定の時期としております。

5. 取締役の個人別の報酬等の内容についての決定に関する事項

取締役の個人別の報酬額については、取締役会決議に基づき代表取締役社長がその具体的内容について委任を受けるものとし、その権限の内容は、各取締役の基本報酬及び賞与の額としております。

また、2025年6月20日開催予定の定時株主総会の議案(決議事項)として提案している「取締役に対する株式報酬制度導入の件」は以下のとおりであります。

1. 提案の理由及び本提案を相当とする理由

当社の取締役の報酬は、「基本報酬」及び「賞与」で構成されていますが、本議案は、当社の取締役（下記のとおり、非常勤取締役及び社外取締役を除きます。）を対象に、新たに信託を用いた株式報酬制度（以下、「本制度」といいます。）を導入することについてご承認をお願いするものです。なお、その詳細につきましては、下記2.の枠内で取締役会にご一任いただきたく存じます。

本制度は、取締役の報酬と当社の株式価値との連動性をより明確にし、取締役が株価の変動による利益・リスクを株主の皆様と共有することで、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的としております。

本議案による報酬枠は、第5号議案「取締役及び監査役の報酬額改定の件」においてご承認をお願いしております取締役の報酬枠とは別枠とし、また、本定時株主総会終結日の翌日から2028年6月の定時株主総会終結の日までの約3年間（以下、「対象期間」といいます。）の間に在任する当社の取締役（非常勤取締役及び社外取締役を除きます。以下も同様です。）を対象とします（ただし、下記2.（2）のとおり、対象期間を延長することがあります。）。

また、本制度は、基本的には、対象期間における職務執行の対価として当社の株式（以下、「当社株式」といいます。）を交付するものではありませんが、過去20年間は、当社をとりまく厳しい経済環境から、取締役に対して十分な報酬等を支給できておりませんでしたので、対象期間開始日時点で在任している取締役のうち、新任ではない取締役に対しては、かかる過去（2006年6月29日開催の第105回定時株主総会の翌日以降）の職務執行の対価として本制度に基づき株式を交付することといたします。

本制度の導入目的は上記のとおりです。また、当社における取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針の内容の概要は、事業報告3.当社の役員に関する事項（2）当事業年度に係る取締役及び監査役の報酬等に記載のとおりですが、本議案の承認可決を条件として、その内容を、第4号議案<ご参考>に記載のとおり変更することを2025年5月8日開催の取締役会において決議しております。しかるところ、本議案の内容は、本制度の導入目的を達成し、また、変更後の当該方針に沿って報酬等を支給するために必要かつ合理的なものであるため、本議案の内容は相当であると判断しております。

なお、第2号議案「取締役10名選任の件」が原案どおり承認可決されまると、本制度の対象となる取締役は6名となります。

2. 本制度における報酬等の額・内容等

(1) 本制度の概要

本制度は、当社が金銭を拠出することにより設定する信託（以下、「本信託」といいます。）が当社の普通株式（以下、「当社株式」といいます。）を取得し、当社が各取締役に付与するポイントの数に相当する数の当社株式が本信託を通じて各取締役に對して交付される、という株式報酬制度です。

なお、取締役が当社株式の交付を受ける時期は、原則として取締役の退任時です。

本制度の対象者	当社取締役（非常勤取締役及び社外取締役を除きます。）
対象期間	本定時株主総会終結日の翌日から2028年6月の定時株主総会終結の日まで
の対象期間約3年間に おいて、の対象者に交 付するために必要な当社 株式の取得資金として当 社が拠出する金銭の上限	合計金337百万円 うち、 () の対象期間における職務執行の対価としての当社株 式の取得資金として 金144百万円 ()過去の職務執行対価としての当社株式の取得資金とし て 金193百万円
当社株式の取得方法	自己株式の処分による方法又は取引所市場（立会外取引を 含む。）から取得する方法
の対象者に付与される ポイント総数の上限	1事業年度あたり22,000ポイント（ただし、対象期間の最初 の事業年度においては、過去の職務執行の対価として交付 する当社株式の見合い分として、上記ポイント上限とは別 枠で、90,000ポイントを上限とするポイントを別途付与）
ポイント付与基準	役位等に応じたポイントを付与
の対象者に対する当社 株式の交付時期	原則として退任時

(2) 当社が拠出する金銭の上限

本信託の当初の信託期間は約3年間とし、当社は、対象期間中に、本制度に基づき取締役へ交付するために必要な当社株式の取得資金として、合計金337百万円(注2)を上限とする金銭を対象期間中に在任する取締役に対する報酬として拠出し、下記(3)のとおり受益権を取得する取締役を受益者として本信託を設定します。本信託は、当社が信託した金銭を原資として、当社株式を、当社からの自己株式の処分による方法又は取引所市場(立会外取引を含みます。)から取得する方法により、取得します。

注1: 上記の当社株式の取得資金のほか、信託報酬、信託管理人報酬等の必要費用についても、合わせて信託します。

注2: 上記の金337百万円は、()対象期間における職務執行の対価として本制度に基づき取締役へ交付するために必要な当社株式の取得資金144百万円と、()過去の職務執行対価として本制度に基づき取締役へ交付するために必要な当社株式(下記(3) 参照)の取得資金193百万円の合計額です。

なお、当社の取締役会の決定により、対象期間を約3年以内の期間を都度定めて延長するとともに、これに伴い、本信託の信託期間を延長し(当社が設定する本信託と同一の目的の信託に本信託の信託財産を移転することにより、実質的に信託期間を延長することを含みます。以下も同様です。)、本制度を継続することがあります。この場合、当社は、当該延長分の対象期間中に、本制度により取締役へ交付するために必要な当社株式の追加取得資金として、当該延長分の対象期間の年数に金48百万円を乗じた金額を上限とする金銭を本信託に追加拠出し、下記(3)のポイント付与及び当社株式の交付を継続します(以降も同様とします。)

また、上記のように対象期間を延長せず本制度を継続しない場合であっても、信託期間の満了時において、既にポイントを付与されているものの未だ退任していない取締役がある場合には、当該取締役が退任し当社株式の交付が完了するまで、本信託の信託期間を延長することがあります。

(3) 取締役へ交付される当社株式の算定方法及び上限

取締役に対するポイントの付与方法等

当社は、当社取締役会で定める株式交付規程に基づき、各取締役に対し、信託期間中の株式交付規程に定めるポイント付与日において、役位等に応じたポイントを付与します。

当社が取締役に対して付与するポイントの総数は、1事業年度あたり22,000ポイントを上限とします。

ただし、対象期間の最初の事業年度においては、対象期間開始日時点で在任している取締役のうち、新任ではない取締役に対しては、過去(2006年6月29日開催の第105回定時株主総会の翌日以降)の職務執行の対価として交付する当社株式の見合い分のポイントとして、上記ポイント上限とは別枠で(ただし、総数90,000ポイントを上限として)、過去の役位等に応じたポイントを付与するものとします。

付与されたポイントの数に応じた当社株式の交付

取締役は、上記で付与されたポイントの数に応じて、下記の手続に従い、当社株式の交付を受けます。ただし、取締役が自己都合により退任する場合等には、それまでに付与されたポイントの全部または一部は消滅し、消滅したポイント見合いの当社株式については交付を受けないものとします。

なお、1ポイントは当社株式1株とします。ただし、当社株式について、株式分割・株式併合等、交付すべき当社株式数の調整を行うことが合理的であると認められる事象が生じた場合には、1ポイントあたりの当社株式数はかかる分割比率・併合比率等に応じて調整されるものとします。

取締役に対する当社株式の交付

各取締役は原則として、その退任時に所定の手続を行って本信託の受益権を取得し、本信託の受益者として、本信託から上記の当社株式の交付を受けます。

ただし、このうち一定の割合の当社株式については、源泉所得税等の納税資金を当社が源泉徴収する目的で本信託において売却換金したうえで、当社株式に代わり金銭で交付することがあります。また、本信託内の当社株式について公開買付けに応募して決済された場合等、本信託内の当社株式が換金された場合には、当社株式に代わり金銭で交付することがあります。

(4) 議決権行使

本信託内の当社株式に係る議決権は、当社及び当社役員から独立した信託管理人の指図に基づき、一律に行使しないことといたします。かかる方法によることで、本信託内の当社株式に係る議決権の行使について、当社経営への中立性を確保することを企図しております。

(5) 配当の取扱い

本信託内の当社株式に係る配当は、本信託が受領し、当社株式の取得代金や本信託に係る受託者の信託報酬等に充てられます。

以上

当社の取締役及び監査役の金銭報酬の額は、上記「(4) 役員の報酬等 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項 a. 方針の内容及び決定方法等」に記載のとおりですが、2025年6月20日開催予定の定時株主総会の議案(決議事項)として提案している「取締役及び監査役の報酬額改定の件」が承認可決されますと、取締役は「月額20百万円以内」から「年額240百万円以内（うち社外取締役は年額12百万円以内）」、監査役は「月額3百万円以内」から「年額36百万円以内」となります。

なお、取締役の報酬額には、従来通り使用人兼務取締役の使用人分相当額は含まないものといたします。2025年6月20日開催予定の定時株主総会の議案(決議事項)として提案している「取締役10名選任の件」及び「監査役1名選任の件」が承認可決されますと、対象となる取締役の員数は10名（うち社外取締役3名）となり、監査役の員数は3名（うち社外監査役2名）となります。

b. 役員の報酬等の額の決定過程における取締役会の活動内容

2024年6月21日開催の取締役会(議長 小長谷育教)において、取締役月額報酬決定の件を出席者一同に諮り、全員一致をもって代表取締役社長に一任と決定しました。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (名)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金	
取締役(社外取締役を除く)	111,859	80,192	31,666		8
監査役(社外監査役を除く)	8,730	8,730			1
社外役員	9,600	9,600			5

役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なものはありません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、投資株式の区分について、専ら株式価値の変動または株式に係る配当の受領によって利益を得ることを目的として保有する投資株式を純投資目的である投資株式とし、その他の投資株式を純投資以外の目的である投資株式として区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a．保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、保有先企業の動向、取引の状況等を踏まえて、当該企業との業務提携の更なる強化や、安定的な取引関係の維持・強化を図ることにより、当社の企業価値の向上に資すると認められる場合、政策保有目的で株式を保有することを基本方針としております。

個別銘柄の保有の適否については、取締役会における検証は行っておりませんが、中長期的な経済的合理性や、取引先との総合的な関係の維持・強化などの観点などの保有効果等について個々に検証を行い、検証の過程で保有を継続する意義が失われていると判断される株式については、当該株式の保有に伴う便益やリスクとが株主資本コストに見合っているか等を精査し、経営者が保有の適否を判断しております。

b．銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	9	16,660
非上場株式以外の株式	5	1,391,296

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(千円)	株式数の増加の理由
非上場株式			
非上場株式以外の株式			

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(千円)
非上場株式		
非上場株式以外の株式		

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の 株式の 保有の 有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表 計上額(千円)	貸借対照表 計上額(千円)		
伊藤忠商事(株)	180,835	180,835	同社は国内を代表する大手総合商社であり、当社は長きにわたって同社グループとの取引があります。当社製品の販路拡大などの取引関係強化目的及び配当利回りなどの経済的合理性の観点から、同社株式を保有しております。	無
	1,247,942	1,169,279		
(株)北國フィナン シヤルホール ディングス	20,000	20,000	同社は金融機関の持株会社であり、同社の関係会社(株)北國銀行)は当社グループの主要取引銀行であります。当初より金融取引の関係強化の目的から同社株式を保有しておりましたが、現在は加えて株式保有の経済的合理性を勘案のうえ、同社株式を保有しております。	無
	117,400	101,400		
北日本紡績(株)	151,600	151,600	同社は石川県に本社・工場を置く紡績メーカーであります。当初より北陸の繊維産業発展と繊維機械の取引関係強化のため同社株式を保有しておりましたが、現在は株式保有の経済的合理性を勘案のうえ、同社株式を保有しております。	無
	24,256	16,221		
(株)島精機製作所	1,000	1,000	同社は主にニット編み機を製造するメーカーであり、当社は同社製品の部品の一部について製造を受託しております。同社との受託生産業務の取引関係強化のため、同社株式を保有しております。	無
	906	1,391		
レンゴー(株)	1,000	1,000	同社は主に板紙・段ボールを中心とする包装資材を製造・販売する会社であります。同社はその他の関係会社に該当するとともに、当社紙工機械の主要な販売先であります。同社との紙工機械部門の取引関係の強化のため、同社株式を保有しております。	有
	792	1,170		

(注) 定量的な保有効果については記載が困難であります。なお、保有の合理性の検証については上記a.に記載のとおりであります。

みなし保有株式

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

当事業年度に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したもの

該当事項はありません。

当事業年度の前4事業年度及び当事業年度に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したもの

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下、「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成していません。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2024年4月1日から2025年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2024年4月1日から2025年3月31日まで)の財務諸表について、太陽有限責任監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組について

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組を行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年 3 月31日)	当連結会計年度 (2025年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	954,875	932,830
受取手形	³ 6,838	3,144
電子記録債権	³ 186,057	190,999
売掛金	4,464,491	5,264,046
契約資産	2,449,730	4,694,744
仕掛品	² 2,537,750	2,572,043
原材料及び貯蔵品	1,650,810	2,234,261
その他	197,457	101,214
貸倒引当金	200	1,058
流動資産合計	12,447,812	15,992,226
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	4,766,673	4,762,077
減価償却累計額	3,648,723	3,562,887
建物及び構築物（純額）	1,117,949	1,199,190
機械装置及び運搬具	4,639,177	4,778,264
減価償却累計額	4,174,744	4,195,924
機械装置及び運搬具（純額）	464,433	582,339
工具、器具及び備品	1,216,295	1,284,526
減価償却累計額	1,133,441	1,156,729
工具、器具及び備品（純額）	82,854	127,797
土地	928,036	928,036
リース資産	144,727	132,908
減価償却累計額	111,619	41,214
リース資産（純額）	33,107	91,693
建設仮勘定	44,558	12,696
有形固定資産合計	¹ 2,670,939	¹ 2,941,752
無形固定資産		
ソフトウェア仮勘定	188,520	283,260
その他	46,420	50,277
無形固定資産合計	234,940	333,537
投資その他の資産		
投資有価証券	¹ 1,312,554	¹ 1,414,462
その他	139,807	158,933
貸倒引当金	6,870	1,740
投資その他の資産合計	1,445,491	1,571,656
固定資産合計	4,351,371	4,846,946
資産合計	16,799,184	20,839,172

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3 2,388,254	2,164,625
電子記録債務	3 899,459	1,267,413
短期借入金	1 5,440,000	1 7,510,000
1年内返済予定の長期借入金	1 240,000	1 300,008
未払法人税等	75,291	252,334
契約負債	258,757	372,678
賞与引当金	220,638	306,017
役員賞与引当金		73,092
受注損失引当金	2 49,275	
製品保証引当金	2,000	2,000
その他	3 730,004	887,919
流動負債合計	10,303,681	13,136,089
固定負債		
長期借入金	1 545,000	1 1,178,320
退職給付に係る負債	750,411	762,468
その他	296,782	376,505
固定負債合計	1,592,194	2,317,293
負債合計	11,895,875	15,453,383
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金	36,301	36,301
利益剰余金	2,073,884	2,497,474
自己株式	8,269	8,348
株主資本合計	4,101,916	4,525,427
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	801,392	860,362
その他の包括利益累計額合計	801,392	860,362
純資産合計	4,903,308	5,385,789
負債純資産合計	16,799,184	20,839,172

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
売上高	1 13,598,145	1 16,203,896
売上原価	2, 3, 4 11,732,665	3, 4 13,706,653
売上総利益	1,865,480	2,497,243
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	495,172	496,096
役員報酬	202,909	207,384
その他	4, 5 913,747	4, 5 1,101,161
販売費及び一般管理費合計	1,611,828	1,804,642
営業利益	253,652	692,601
営業外収益		
受取利息	6	297
受取配当金	30,952	35,743
受贈益		6,168
保険解約返戻金	5,566	
その他	6,239	9,096
営業外収益合計	42,764	51,305
営業外費用		
支払利息	37,427	89,995
その他	5,068	7,239
営業外費用合計	42,495	97,235
経常利益	253,921	646,670
特別利益		
貸倒引当金戻入額		3,456
投資有価証券売却益	4,799	
特別利益合計	4,799	3,456
特別損失		
固定資産処分損	6 8,833	6 19,393
特別損失合計	8,833	19,393
税金等調整前当期純利益	249,888	630,733
法人税、住民税及び事業税	80,422	266,488
法人税等調整額	82,487	59,344
法人税等合計	2,064	207,143
当期純利益	251,952	423,589
非支配株主に帰属する当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益	251,952	423,589

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
当期純利益	251,952	423,589
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	285,600	58,970
その他の包括利益合計	¹ 285,600	¹ 58,970
包括利益	537,553	482,559
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	537,553	482,559
非支配株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)

(単位：千円)

	株主資本					その他の包括利益累計額		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	2,000,000	36,301	1,821,932	8,269	3,849,963	515,791	515,791	4,365,755
当期変動額								
親会社株主に帰属する当期純利益			251,952		251,952			251,952
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						285,600	285,600	285,600
当期変動額合計			251,952		251,952	285,600	285,600	537,553
当期末残高	2,000,000	36,301	2,073,884	8,269	4,101,916	801,392	801,392	4,903,308

当連結会計年度(自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)

(単位：千円)

	株主資本					その他の包括利益累計額		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	2,000,000	36,301	2,073,884	8,269	4,101,916	801,392	801,392	4,903,308
当期変動額								
親会社株主に帰属する当期純利益			423,589		423,589			423,589
自己株式の取得				78	78			78
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						58,970	58,970	58,970
当期変動額合計			423,589	78	423,511	58,970	58,970	482,481
当期末残高	2,000,000	36,301	2,497,474	8,348	4,525,427	860,362	860,362	5,385,789

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	249,888	630,733
減価償却費	268,048	262,764
貸倒引当金の増減額（ は減少）	-	4,272
賞与引当金の増減額（ は減少）	21,768	85,378
役員賞与引当金の増減額（ は減少）	-	73,092
受注損失引当金の増減額（ は減少）	25,827	49,275
退職給付に係る負債の増減額（ は減少）	34,959	12,056
受取利息及び受取配当金	30,958	36,040
支払利息	37,427	89,995
投資有価証券売却損益（ は益）	4,799	-
固定資産処分損益（ は益）	8,833	19,393
売上債権の増減額（ は増加）	204,032	800,802
契約資産の増減額（ は増加）	1,259,259	2,245,014
棚卸資産の増減額（ は増加）	259,485	617,744
仕入債務の増減額（ は減少）	524,400	206,446
契約負債の増減額（ は減少）	1,743,978	113,921
未払又は未収消費税等の増減額	69,404	108,442
その他	108,131	143,098
小計	1,815,680	2,007,826
利息及び配当金の受取額	30,958	36,040
利息の支払額	39,081	93,827
法人税等の支払額	72,178	99,813
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,895,980	2,165,427
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	374,493	588,816
投資有価証券の取得による支出	812	863
ゴルフ会員権の売却による収入	-	3,906
投資有価証券の売却による収入	4,800	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	370,505	585,774
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	2,370,000	2,070,000
長期借入れによる収入	-	1,000,000
長期借入金の返済による支出	240,000	306,672
リース債務の返済による支出	36,740	34,093
自己株式の取得による支出	-	78
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,093,259	2,729,155
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	173,226	22,045
現金及び現金同等物の期首残高	1,128,102	954,875
現金及び現金同等物の期末残高	954,875	932,830

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数及び名称

3社 関東航空計器株式会社、株式会社イッセイ、株式会社インメックス

(2) 主要な非連結子会社の名称等

非連結子会社はありません。

2 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は連結決算日と一致しております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

...時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株式等

...移動平均法による原価法

ロ 棚卸資産

評価基準は、原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)であります。

評価方法は、原材料及び貯蔵品は移動平均法、仕掛品は個別法であります。

ハ デリバティブ

...時価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。ただし、2002年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く。)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3～60年

機械装置及び運搬具 2～12年

ロ 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

ハ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

ロ 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

ハ 役員賞与引当金

役員賞与の支給に充てるため、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

ニ 受注損失引当金

受注契約に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末において、将来の損失が見込まれ、かつ当該損失額を合理的に見積ることができるものについて、翌連結会計年度以降の損失見込額を計上しております。

ホ 製品保証引当金

製品保証引当金は、製品の販売後、一定期間当該製品を無償で補修した場合の補修費用の支出に備えるため、過去の実績に基づく発生見込額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

当社及び連結子会社の製品の販売に係る収益は、主に製品の販売又は販売した製品に係る改造等であり、顧客との契約に基づいて製品を引き渡す履行義務を負っております。当該履行義務は、顧客へ製品を引き渡す一時点において、当該製品に対する支配を顧客が獲得し充足されると判断していることから、引渡時点で収益を認識しております。なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、国内の製品販売において、出荷時から当該製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間である場合には、出荷時に収益を認識しております。また、一時点で認識している収益は、顧客との契約において約束された対価から値引き、割戻及び返品等を控除した金額で算定しております。

一方で、防衛機器の製造販売のうち、進捗部分についての成果の確実性が認められる契約については、履行義務の充足の進捗度に応じて一定期間にわたり収益を認識しております。進捗度は、履行義務の充足に使用された原価が契約における取引開始日から履行義務を完全に充足するまでに予想される見積総原価に占める割合により算定し、見積総原価は、将来の原価を見積ることにより算定しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(重要な会計上の見積り)

1. 紙工機械の機台に係る仕掛品の評価及び見積りの内容

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(単位：千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
仕掛品	2,537,750	2,572,043

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額の算出方法

仕掛品の評価におきましては、期末における正味売却価額が取得原価よりも下落している場合には、当該正味売却価額をもって連結貸借対照表計上額としております。

将来の事業計画における主要な仮定

当連結会計年度の連結貸借対照表に計上した金額には、紙工機械の機台に係る仕掛品525,380千円が計上されております。紙工機械は、価格競争により受注時の見積り利益率が低くなる傾向にあり、その後の製造原価の変動によっては正味売却価額が取得原価よりも下落することがあります。また、受注から販売までに一定の製造期間を要することから、製造期間における製造原価の見積りには高い不確実性を伴い、決算日における仕掛品に係る見積追加製造原価の算定には経営者の重要な判断が必要となります。さらに、販売先が確定していない仕掛品について、将来の販売先や販売方法を想定した売価、見積追加製造原価及び見積販売直接経費の算定には高い不確実性を伴っております。当該見積り及び前提となった仮定について、環境の変化等により将来見直しが必要になった場合、翌連結会計年度の仕掛品及び売上原価の金額に重要な影響を与える可能性があります。

2. 防衛機器の製造販売に関する履行義務の充足に係る進捗度の見積りの内容

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(単位：千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
売上高		
一定期間にわたり認識した収益	4,951,780	6,318,605

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額の算出方法

防衛機器の製造販売のうち履行義務が一定の期間にわたり充足されるものについて、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定の期間にわたり認識しております。進捗度は、履行義務の充足に使用された原価が契約における取引開始日から履行義務を完全に充足するまでに予想される見積総原価に占める割合により算定されており、見積総原価は、将来の原価を見積ることにより算定しております。

将来の事業計画における主要な仮定

当連結会計年度の連結損益計算書に計上した金額には、一定期間にわたり認識した収益6,318,605千円が計上されております。防衛機器の製造は、見積総原価の算定を行った時点から履行義務を完全に充足するまでの期間が長期にわたり、また、見積総原価の算定には、将来の原材料の購入原価や労務費のほか、将来の操業度の予測に基づく固定費の配賦額が含まれていることから、当初想定していなかった原材料価格の変動や操業度の変化による固定費配賦単価の変動等によって、履行義務の充足に係る進捗度の見直しが必要となる場合があります。当該見積り及び前提となった仮定について環境の変化等により将来見直しが必要になった場合、翌連結会計年度の売上高の金額に重要な影響を与える可能性があります。

(未適用の会計基準等)

- ・「リースに関する会計基準」(企業会計基準第34号 2024年9月13日)
- ・「リースに関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第33号 2024年9月13日)

ほか、関連する企業会計基準、企業会計基準適用指針、実務対応報告及び移管指針の改正

(1) 概要

国際的な会計基準と同様に、借手のすべてのリースについて資産・負債を計上する等の取扱いを定めるものがあります。

(2) 適用予定日

2028年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「リースに関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり
ます。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度において、「流動資産」の「受取手形」に含めて表示しておりました「電子記録債権」及び「流動負債」の「支払手形及び買掛金」に含めて表示しておりました「電子記録債務」、「流動負債」の「その他」に含めて表示しておりました「未払法人税等」は、金額の重要性が増したため、当連結会計年度より区分掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「受取手形」に表示しておりました192,896千円は、「受取手形」6,838千円、「電子記録債権」186,057千円、「流動負債」の「支払手形及び買掛金」に表示しておりました3,287,714千円は、「支払手形及び買掛金」2,388,254千円、「電子記録債務」899,459千円、「流動負債」の「その他」に表示しておりました805,296千円は、「未払法人税等」75,291千円、「その他」730,004千円として組替えております。

(連結貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
工場財団抵当		
建物及び構築物	159,700千円	209,546千円
機械装置及び運搬具	111,765	102,014
土地	231,211	231,211
計	502,677	542,772
その他		
建物及び構築物	299,460	279,994
土地	164,276	164,276
投資有価証券	711,260	759,110
合計	1,677,673	1,746,153

上記に対応する債務額

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
短期借入金	1,230,000千円	1,170,000千円
1年内返済予定の長期借入金	240,000	300,008
長期借入金	545,000	1,178,320
合計	2,015,000	2,648,328

(注) 工場財団に対応する債務は、個別に対応させることが困難であるため区分して記載しておりません。

2 棚卸資産及び受注損失引当金の表示

損失が見込まれる受注契約に係る棚卸資産は、これに対応する受注損失引当金を相殺表示しております。相殺表示した棚卸資産に対応する受注損失引当金の額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
仕掛品に係るもの	7,698千円	- 千円
合計	7,698	-

3 前連結会計年度の末日は銀行休業日ですが、同日満期の手形等については、満期日に決済があったものとして処理しております。前連結会計年度末日満期手形等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
受取手形	4,435千円	- 千円
電子記録債権	5,295	-
支払手形	198,881	-
電子記録債務	1,400	-
設備関係支払手形	3,447	-
設備関係電子記録債務	968	-

(連結損益計算書関係)

1 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、連結財務諸表「注記事項(セグメント情報等)」に記載しております。

2 売上原価に含まれている受注損失引当金繰入額は、次のとおりであります。

前連結会計年度 (自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月31日)
49,275千円	- 千円

3 期末棚卸高は収益性の低下による簿価切下後の金額であり、次の棚卸資産評価損が売上原価に含まれております。

前連結会計年度 (自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月31日)
153,698千円	124,860千円

4 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

前連結会計年度 (自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月31日)
315,702千円	393,015千円

5 販売費及び一般管理費のその他のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月31日)
貸倒引当金繰入額	- 千円	858千円
賞与引当金繰入額	38,663	55,129
役員賞与引当金繰入額	-	73,092
退職給付費用	26,383	27,982

6 固定資産処分損の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月31日)
建物及び構築物	2,357千円	15,412千円
機械装置及び運搬具	6,187	3,878
工具、器具及び備品	287	102
計	8,833	19,393

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額並びに法人税等及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	411,286千円	101,044千円
組替調整額	-	-
法人税等及び税効果調整前	411,286	101,044
法人税等及び税効果額	125,686	42,074
その他有価証券評価差額金	285,600	58,970
その他の包括利益合計	285,600	58,970

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	6,385,972	-	-	6,385,972

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	7,122	-	-	7,122

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	6,385,972	-	-	6,385,972

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	7,122	44	-	7,166

(変動事由の概要)

単元未満株式の買取りによる増加 44株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

2025年6月20日開催予定の定時株主総会の議案として、以下のとおり提案しております。

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2025年6月20日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	63,788	10.00	2025年3月31日	2025年6月23日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

(1) 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
現金及び預金勘定	954,875千円	932,830千円
現金及び現金同等物	954,875	932,830

(2) 重要な非資金取引の内容

新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
ファイナンス・リース取引に係る 資産及び債務の額	3,289千円	90,243千円

(リース取引関係)

1. 所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産・・・工場設備等

(2) リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項 4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
1年内	6,110千円	11,816千円
1年超	13,587	26,166
合計	19,698	37,982

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定しております。また、資金調達については銀行借入による方針です。

主な金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金、電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。受取手形及び売掛金、電子記録債権に係る顧客の信用リスクに対しては、社内規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を定期的に把握する体制としております。

投資有価証券は株式であります。上場株式については市場価格の変動リスクに晒されております。市場価格の変動リスクに対しては、定期的に時価の把握を行い、経営者に適時報告を行っております。

借入金の使途は主に運転資金であります。変動金利の借入金は金利の変動リスクに晒されておりますので、資金計画に基づき効率的な資金調達に努めております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

区 分	連結貸借対照表計上額 (*) (千円)	時 価 (*) (千円)	差 額 (千円)
投資有価証券			
その他有価証券	1,295,893	1,295,893	-
1年内返済予定の長期借入金及び 長期借入金	(785,000)	(786,058)	(1,058)

(*) 負債に計上されているものについては、()で示しております。

当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

区 分	連結貸借対照表計上額 (*) (千円)	時 価 (*) (千円)	差 額 (千円)
投資有価証券			
その他有価証券	1,397,802	1,397,802	-
1年内返済予定の長期借入金及び 長期借入金	(1,478,328)	(1,473,075)	(5,253)

(*) 負債に計上されているものについては、()で示しております。

(注) 1 「現金及び預金」、「受取手形」、「売掛金」、「電子記録債権」、「支払手形及び買掛金」、「電子記録債務」、「短期借入金」については、現金であること、及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。また、リース債務については金額の重要性が乏しいため記載を省略しております。

2 市場価格のない株式等(連結貸借対照表計上額 前連結会計年度16,660千円 当連結会計年度16,660千円)は、「投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

3 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2024年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	954,875	-	-	-
受取手形	6,838	-	-	-
電子記録債権	186,057	-	-	-
売掛金	4,464,491	-	-	-
合計	5,612,263	-	-	-

当連結会計年度(2025年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	932,830	-	-	-
受取手形	3,144	-	-	-
電子記録債権	190,999	-	-	-
売掛金	5,264,046	-	-	-
合計	6,391,021	-	-	-

4 長期借入金、リース債務の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2024年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	5,440,000	-	-	-	-	-
長期借入金	240,000	200,000	162,500	80,000	30,000	72,500
リース債務	22,744	6,807	4,352	2,073	2,073	1,177
合計	5,702,744	206,807	166,852	82,073	32,073	73,677

当連結会計年度(2025年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	7,510,000	-	-	-	-	-
長期借入金	300,008	262,508	180,008	130,008	130,008	475,788
リース債務	21,146	18,691	16,411	16,411	11,868	10,848
合計	7,831,154	281,199	196,419	146,419	141,876	486,636

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

前連結会計年度（2024年3月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
其他有価証券				
株式	1,295,893	-	-	1,295,893
資産計	1,295,893	-	-	1,295,893

当連結会計年度（2025年3月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
其他有価証券				
株式	1,397,802	-	-	1,397,802
資産計	1,397,802	-	-	1,397,802

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の商品

前連結会計年度（2024年3月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
1年内返済予定の長期借入金及び長期借入金	-	786,058	-	786,058
負債計	-	786,058	-	786,058

当連結会計年度（2025年3月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
1年内返済予定の長期借入金及び長期借入金	-	1,473,075	-	1,473,075
負債計	-	1,473,075	-	1,473,075

(注) 時価の算定に用いた評価方法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

1年内返済予定の長期借入金及び長期借入金

1年内返済予定の長期借入金及び長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定しており、その時価をレベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(2024年3月31日)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	1,294,502	141,190	1,153,311
債券	-	-	-
その他	-	-	-
小計	1,294,502	141,190	1,153,311
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	1,391	1,429	38
債券	-	-	-
その他	-	-	-
小計	1,391	1,429	38
合計	1,295,893	142,619	1,153,273

当連結会計年度(2025年3月31日)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	1,396,103	141,068	1,255,035
債券	-	-	-
その他	-	-	-
小計	1,396,103	141,068	1,255,035
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	1,698	2,415	717
債券	-	-	-
その他	-	-	-
小計	1,698	2,415	717
合計	1,397,802	143,483	1,254,318

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自2023年4月1日 至2024年3月31日)

区分	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
株式	4,800	4,799	-
債券	-	-	-
その他	-	-	-
合計	4,800	4,799	-

当連結会計年度(自2024年4月1日 至2025年3月31日)

該当事項はありません。

(注)株式の減損にあたっては、時価が取得原価の50%以上下落した銘柄について著しく下落したと判断して減損処理を行います。また、時価の下落が30%以上50%未満の株式にあつては、個別銘柄ごとに四半期を含む過去2年間の各決算期において、常に30%以上の下落が連続している場合に著しく下落したと判断し、回復する見込みがあると認められる場合を除き、減損処理を行います。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は退職金制度の40%相当額について確定給付企業年金制度を採用し、残額については退職一時金を充当しております。当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

これに加えて、当社は2021年4月より選択制確定拠出年金制度を導入しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	785,371 千円	750,411 千円
退職給付費用	152,679	192,962
退職給付の支払額	85,596	101,927
年金制度への拠出額	102,042	78,978
退職給付に係る負債の期末残高	750,411	762,468

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	1,305,843 千円	1,293,635 千円
非積立型制度の退職給付債務	663,731	663,580
年金資産	1,219,163	1,194,748
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	750,411	762,468
退職給付に係る負債	750,411	762,468
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	750,411	762,468

(3) 退職給付費用

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
簡便法で計算した退職給付費用	152,679 千円	192,962 千円

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出年金制度への要拠出額は、前連結会計年度14,425千円、当連結会計年度14,593千円であります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
繰延税金資産		
税務上の繰越欠損金(注)2	1,037千円	- 千円
退職給付に係る負債	230,551	240,104
棚卸資産評価損	68,826	69,470
賞与引当金	67,119	92,921
その他	86,302	121,169
繰延税金資産小計	453,837	523,666
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)2	-	-
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	215,131	225,896
評価性引当額小計(注)1	215,131	225,896
繰延税金資産合計	238,705	297,770
繰延税金負債と相殺	217,779	244,685
繰延税金資産の純額	20,926	53,084
繰延税金負債		
連結子会社の時価評価差額	126,981	126,981
その他有価証券評価差額金	351,881	393,956
固定資産圧縮積立金	3,790	3,521
その他	42	30
繰延税金負債合計	482,695	524,489
繰延税金資産と相殺	217,779	244,685
繰延税金負債の純額	264,915	279,804

(注) 1 評価性引当額が10,764千円増加しております。この増加の主な内容は、当社において将来減算一時差異等に係る評価性引当額が増加したことによるものです。

2 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度(2024年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の 繰越欠損金(a)						1,037	1,037
評価性引当額							
繰延税金資産						1,037	(b) 1,037

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(b) 繰越欠損金1,037千円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産を1,037千円計上しております。当該繰延税金資産を計上した税務上の繰越欠損金は、将来の課税所得の見込み等により、回収可能と判断し評価性引当額を認識しておりません。

当連結会計年度(2025年3月31日)

該当事項はありません。

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
法定実効税率	30.5%	30.5%
(調整)		
評価性引当額	32.1	0.6
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.7	4.4
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.8	0.4
住民税均等割額	2.6	0.9
賃上げ促進税制による税額控除	1.8	2.8
その他	1.0	0.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	0.8	32.8

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律（令和7年法律第13号）」が2025年3月31日に国会で成立したことに伴い、2026年4月1日以後開始する連結会計年度より防衛特別法人税の課税が行われることとなりました。

これに伴い、2026年4月1日に開始する連結会計年度以後において解消が見込まれる一時差異等に係る繰延税金資産及び繰延税金負債については、法定実効税率を30.5%から31.4%に変更し計算しております。

この税率変更により当連結会計年度の繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）が1,955千円、繰延税金負債が11,264千円それぞれ増加し、その他有価証券評価差額金が11,286千円、法人税等調整額が1,977千円それぞれ減少しております。

（収益認識関係）

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

「(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項) 4 会計方針に関する事項 (5) 重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

約束された取引の対価につきましては、履行義務を完全に充足してから概ね6ヶ月以内に受領しております。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

契約資産及び契約負債の残高等

顧客との契約から生じた債権、契約資産及び契約負債に関する情報は、次のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
顧客との契約から生じた債権(期首残高)		
受取手形	17,816	6,838
電子記録債権	174,034	186,057
売掛金	4,669,569	4,464,491
	4,861,420	4,657,388
顧客との契約から生じた債権(期末残高)		
受取手形	6,838	3,144
電子記録債権	186,057	190,999
売掛金	4,464,491	5,264,046
	4,657,388	5,458,190
契約資産(期首残高)	1,190,470	2,449,730
契約資産(期末残高)	2,449,730	4,694,744
契約負債(期首残高)	2,002,736	258,757
契約負債(期末残高)	258,757	372,678

当連結会計年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、239,622千円(前連結会計年度1,844,812千円)であります。また、当連結会計年度において、契約資産は2,245,014千円増加(前連結会計年度は1,259,259千円の増加)し、契約負債は113,921千円増加(前連結会計年度は1,743,978千円の減少)しております。

契約資産は、防衛機器の製造販売について進捗度の見積りに基づいて認識した収益に係る対価に対する当社グループの権利であり、当連結会計年度において、6,950,466千円(前連結会計年度5,455,024千円)増加しております。契約資産は、対価に対する当社グループの権利が無条件になった時点で顧客との契約から生じた債権に振り替えられ、当連結会計年度において、4,510,991千円(前連結会計年度2,642,054千円)減少しております。また、契約資産は、同一の契約における契約負債と相殺され、当連結会計年度において、194,461千円(前連結会計年度1,553,709千円)減少しております。

契約負債は、顧客から受け取った前受金に関するものであり、当連結会計年度において、1,172,846千円(前連結会計年度881,619千円)増加しております。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩され、当連結会計年度において、1,058,924千円(前連結会計年度2,625,597千円)減少しております。

過去の期間に充足(又は部分的に充足)した履行義務から、前連結会計年度及び当連結会計年度に認識した収益(主に、取引価格の変動)の額に重要性はありません。

残存履行義務に配分した取引価格

当社グループでは、残存履行義務に配分した取引価格の注記にあたって実務上の便法を適用し、当初に予想される契約期間が1年以内の契約について注記の対象に含めておりません。未充足(又は部分的に未充足)の履行義務は、当連結会計年度末において、13,157,847千円(前連結会計年度10,687,039千円)であります。当該履行義務は、防衛機器の製造販売に関するものであり、期末日後4年以内に収益として認識することを見込んでおります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、「紙工機械」、「防衛機器」及び「受託生産」を報告セグメントとしております。「紙工機械」は、段ボール製函印刷機械等の紙工機械の製造販売を行っております。「防衛機器」は機雷、航空機用電子機器等の製造販売を行っております。「受託生産」は、他社から各種機械の生産を受託しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成において採用している会計処理の方法と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部売上高及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情報
前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				その他	合計
	紙工機械	防衛機器	受託生産	計		
売上高						
一時点で移転される財	3,399,415	3,049,648	1,530,997	7,980,060	666,305	8,646,365
一定の期間にわたり 移転される財	-	4,951,780	-	4,951,780	-	4,951,780
顧客との契約から生じる収益	3,399,415	8,001,428	1,530,997	12,931,840	666,305	13,598,145
外部顧客への売上高	3,399,415	8,001,428	1,530,997	12,931,840	666,305	13,598,145
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	30,708	30,708
計	3,399,415	8,001,428	1,530,997	12,931,840	697,013	13,628,853
セグメント利益又は損失()	142,312	789,586	109,029	756,303	113,344	869,647
セグメント資産	3,484,287	9,012,594	707,237	13,204,118	738,223	13,942,341
その他の項目						
減価償却費	61,898	160,028	37,800	259,726	8,322	268,048
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	121,097	283,248	48,856	453,201	13,353	466,554

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれないセグメントであり、主に電子機器、繊維機械等の製造・販売を行っております。

当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				その他	合計
	紙工機械	防衛機器	受託生産	計		
売上高						
一時点で移転される財	3,021,494	4,774,999	1,286,218	9,082,711	802,580	9,885,291
一定の期間にわたり移転される財	-	6,318,605	-	6,318,605	-	6,318,605
顧客との契約から生じる収益	3,021,494	11,093,604	1,286,218	15,401,316	802,580	16,203,896
外部顧客への売上高	3,021,494	11,093,604	1,286,218	15,401,316	802,580	16,203,896
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	30,204	30,204
計	3,021,494	11,093,604	1,286,218	15,401,316	832,784	16,234,100
セグメント利益又は損失()	66,725	1,301,502	78,825	1,313,602	169,938	1,483,540
セグメント資産	2,723,444	13,760,074	643,360	17,126,878	792,309	17,919,187
その他の項目						
減価償却費	54,534	171,396	28,652	254,582	8,182	262,764
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	130,497	417,050	73,337	620,884	24,359	645,243

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれないセグメントであり、主に電子機器、繊維機械等の製造・販売を行っております。

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	12,931,840	15,401,316
「その他」の区分の売上高	697,013	832,784
セグメント間取引消去	30,708	30,204
連結財務諸表の売上高	13,598,145	16,203,896

(単位：千円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	756,303	1,313,602
「その他」の区分の利益	113,344	169,938
セグメント間取引消去	30,708	30,204
全社費用(注)	585,287	760,735
連結財務諸表の営業利益	253,652	692,601

(注) 全社費用は、当社グループの管理部門に係る費用であります。

(単位：千円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	13,204,118	17,126,878
「その他」の区分の資産	738,223	792,309
全社資産(注)	2,856,843	2,919,985
連結財務諸表の資産合計	16,799,184	20,839,172

(注) 全社資産は、主に当社グループにおける余資運用資金(現金及び預金他)、長期投資資金(投資有価証券他)等であります。

(単位：千円)

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度
減価償却費	259,726	254,582	8,322	8,182	-	-	268,048	262,764
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	453,201	620,884	13,353	24,359	-	-	466,554	645,243

【関連情報】

前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
防衛省	5,696,607	防衛機器

当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
防衛省	7,684,712	防衛機器
三菱重工業株式会社	1,797,146	防衛機器

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

１．関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

種類	会社の 名称	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
その他の 関係会社	レンゴー 株式会社	大阪市 北区	31,066,756	板紙、段ボール、 段ボール箱の製造販売、 軟包装製品の販売他	被所有 直接 20.1	当社製品の 販売保守 役員の兼任 1名	製品の 販売保守	1,133,811	売掛金	633,190
									契約負債	107,250

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

取引条件は、市場価格を勘案し価格交渉の上、決定しております。

当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

種類	会社の 名称	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
その他の 関係会社	レンゴー 株式会社	大阪市 北区	31,066,756	板紙、段ボール、 段ボール箱の製造販売、 軟包装製品の販売他	被所有 直接 20.1	当社製品の 販売保守 役員の兼任 1名	製品の 販売保守	994,785	売掛金	354,573
									契約負債	120,450

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

取引条件は、市場価格を勘案し価格交渉の上、決定しております。

(イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

該当事項はありません。

(ウ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

種類	会社の 名称	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
その他の 関係会社 の子会社	大和紙器 株式会社	大阪府 茨木市	806,000	段ボールシート、 段ボールケースの製造 販売	なし	当社製品の 販売保守	製品の 販売保守	395,428	売掛金	399,733

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

取引条件は、市場価格を勘案し価格交渉の上、決定しております。

当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

種類	会社の 名称	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
その他の 関係会社 の子会社	セッツ カートン 株式会社	兵庫県 伊丹市	400,000	段ボールシート、 段ボールケースの製造 販売	なし	当社製品の 販売保守	製品の 販売保守	259,635	売掛金	194,201

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

取引条件は、市場価格を勘案し価格交渉の上、決定しております。

(エ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

２．親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
1 株当たり純資産額	768.68円	844.33円
1 株当たり当期純利益	39.50円	66.41円

(注) 1 . 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 . 1 株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (2024年 3 月31日)	当連結会計年度 (2025年 3 月31日)
純資産の部の合計額(千円)	4,903,308	5,385,789
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	-	-
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	4,903,308	5,385,789
1 株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(株)	6,378,850	6,378,806

3 . 1 株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	251,952	423,589
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	251,952	423,589
普通株式の期中平均株式数(株)	6,378,850	6,378,820

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	5,440,000	7,510,000	0.98	-
1年以内に返済予定の長期借入金	240,000	300,008	1.38	-
1年以内に返済予定のリース債務	22,744	21,146	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	545,000	1,178,320	1.38	2026年8月31日～ 2034年7月31日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	16,484	74,231	-	2026年10月20日～ 2031年7月25日
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	6,264,228	9,083,705	-	-

(注) 1 平均利率は、期中借入残高に対する加重平均利率を記載しております。

なお、リース債務については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、平均利率を記載しておりません。

2 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は下記のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	262,508	180,008	130,008	130,008
リース債務	18,691	16,411	16,411	11,868

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における半期情報等

	中間連結会計期間	当連結会計年度
売上高 (千円)	6,064,077	16,203,896
税金等調整前 中間(当期)純利益 (千円)	306,608	630,733
親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益 (千円)	215,835	423,589
1株当たり 中間(当期)純利益 (円)	33.84	66.41

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年 3 月31日)	当事業年度 (2025年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	478,531	496,098
受取手形	3 6,369	3,144
電子記録債権	3 61,823	63,651
売掛金	1 2,544,285	1 2,077,616
契約資産	1,477,227	2,838,775
仕掛品	1,372,607	1,156,278
原材料及び貯蔵品	704,943	699,865
その他	1 92,944	1 29,684
貸倒引当金	200	200
流動資産合計	6,738,531	7,364,914
固定資産		
有形固定資産		
建物	689,038	785,443
構築物	41,977	37,381
機械及び装置	383,591	489,946
車両運搬具	6,794	5,615
工具、器具及び備品	63,129	49,750
土地	286,354	286,354
リース資産	10,030	751
建設仮勘定	44,558	12,696
有形固定資産合計	2 1,525,474	2 1,667,938
無形固定資産		
ソフトウェア仮勘定	188,520	283,260
その他	21,137	14,346
無形固定資産合計	209,657	297,606
投資その他の資産		
投資有価証券	2 1,306,122	2 1,407,957
関係会社株式	787,767	787,767
関係会社長期貸付金	342,540	258,950
その他	108,834	98,192
貸倒引当金	6,970	1,840
投資その他の資産合計	2,538,294	2,551,028
固定資産合計	4,273,426	4,516,573
資産合計	11,011,958	11,881,487

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年 3 月31日)	当事業年度 (2025年 3 月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	3 705,511	38,430
電子記録債務	1, 3 944,859	1 1,301,013
買掛金	1 994,301	1 1,101,583
短期借入金	2 2,290,000	2 2,210,000
1年内返済予定の長期借入金	2 240,000	2 300,008
契約負債	258,757	350,018
賞与引当金	56,522	87,875
役員賞与引当金		36,426
受注損失引当金	45,275	
その他	1, 3 534,160	1 644,301
流動負債合計	6,069,387	6,069,657
固定負債		
長期借入金	2 545,000	2 1,178,320
退職給付引当金	552,829	551,988
その他	269,432	302,862
固定負債合計	1,367,262	2,033,170
負債合計	7,436,649	8,102,828
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金		
その他資本剰余金	36,301	36,301
資本剰余金合計	36,301	36,301
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	748,187	892,106
利益剰余金合計	748,187	892,106
自己株式	8,269	8,348
株主資本合計	2,776,218	2,920,059
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	799,089	858,600
評価・換算差額等合計	799,089	858,600
純資産合計	3,575,308	3,778,659
負債純資産合計	11,011,958	11,881,487

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当事業年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
売上高	1 9,324,967	1 10,064,582
売上原価	1 8,301,603	1 8,802,506
売上総利益	1,023,363	1,262,075
販売費及び一般管理費	1, 2 1,011,912	1, 2 1,083,251
営業利益	11,451	178,824
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	1 90,112	1 94,320
その他	1 13,674	1 11,234
営業外収益合計	103,787	105,554
営業外費用		
支払利息	16,932	51,375
その他	4,664	8,130
営業外費用合計	21,597	59,506
経常利益	93,641	224,872
特別利益		
貸倒引当金戻入額		3,456
投資有価証券売却益	4,799	
特別利益合計	4,799	3,456
特別損失		
固定資産処分損	6,520	17,742
特別損失合計	6,520	17,742
税引前当期純利益	91,920	210,585
法人税、住民税及び事業税	4,962	81,821
法人税等調整額	68,481	15,154
法人税等合計	63,519	66,667
当期純利益	155,440	143,918

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	
		その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	2,000,000	36,301	36,301	592,747	592,747
当期変動額					
当期純利益				155,440	155,440
株主資本以外の項目の当期 変動額（純額）					
当期変動額合計				155,440	155,440
当期末残高	2,000,000	36,301	36,301	748,187	748,187

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	8,269	2,620,778	515,312	515,312	3,136,091
当期変動額					
当期純利益		155,440			155,440
株主資本以外の項目の当期 変動額（純額）			283,776	283,776	283,776
当期変動額合計		155,440	283,776	283,776	439,216
当期末残高	8,269	2,776,218	799,089	799,089	3,575,308

当事業年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	
		その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	2,000,000	36,301	36,301	748,187	748,187
当期変動額					
当期純利益				143,918	143,918
自己株式の取得					
株主資本以外の項目の当期 変動額（純額）					
当期変動額合計				143,918	143,918
当期末残高	2,000,000	36,301	36,301	892,106	892,106

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	8,269	2,776,218	799,089	799,089	3,575,308
当期変動額					
当期純利益		143,918			143,918
自己株式の取得	78	78			78
株主資本以外の項目の当期 変動額（純額）			59,511	59,511	59,511
当期変動額合計	78	143,840	59,511	59,511	203,351
当期末残高	8,348	2,920,059	858,600	858,600	3,778,659

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

イ 子会社株式

...移動平均法による原価法

ロ その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

...時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株式等

...移動平均法による原価法

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は、棚卸資産は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

評価方法は、原材料及び貯蔵品は移動平均法、仕掛品は個別法によっております。

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。ただし、2007年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く。)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3～60年

機械装置及び運搬具 2～12年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、当事業年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員賞与の支給に充てるため、当事業年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

(4) 受注損失引当金

受注契約に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末において、将来の損失が見込まれ、かつ当該損失額を合理的に見積ることができるものについて、翌事業年度以降の損失見込額を計上しております。

(5) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

4 重要な収益及び費用の計上基準

当社の製品の販売に係る収益は、主に製品の販売又は販売した製品に係る改造等であり、顧客との契約に基づいて製品を引き渡す履行義務を負っております。当該履行義務は、顧客へ製品を引き渡す一時点において、当該製品に対する支配を顧客が獲得し充足されると判断していることから、引渡時点で収益を認識しております。なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、国内の製品販売において、出荷時から当該製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益を認識しております。また、一時点で認識している収益は、顧客との契約において約束された対価から値引き、割戻及び返品等を控除した金額で算定しております。

一方で、防衛機器の製造販売のうち、進捗部分についての成果の確実性が認められる契約については、履行義務の充足の進捗度に応じて一定期間にわたり収益を認識しております。進捗度は、履行義務の充足に使用された原価が契約における取引開始日から履行義務を完全に充足するまでに予想される見積総原価に占める割合により算定し、見積総原価は、将来の原価を見積ることにより算定しております。

(重要な会計上の見積り)

1.紙工機械の機台に係る仕掛品の評価及び見積りの内容

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(単位：千円)

	前事業年度	当事業年度
仕掛品	1,372,607	1,156,278

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

連結財務諸表「注記事項 (重要な会計上の見積り) 1.紙工機械の機台に係る仕掛品の評価及び見積りの内容」に記載した内容と同一であります。

2.防衛機器の製造販売に関する履行義務の充足に係る進捗度の見積りの内容

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(単位：千円)

	前事業年度	当事業年度
売上高		
一定期間にわたり認識した収益	3,948,377	4,175,251

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

連結財務諸表「注記事項 (重要な会計上の見積り) 2.防衛機器の製造販売に関する履行義務の充足に係る進捗度の見積りの内容」に記載した内容と同一であります。

(表示方法の変更)

(貸借対照表関係)

前事業年度において、「流動資産」の「受取手形」に含めて表示しておりました「電子記録債権」及び「流動負債」の「支払手形」に含めて表示しておりました「電子記録債務」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より区分掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「受取手形」に表示していた68,192千円は、「受取手形」6,369千円、「電子記録債権」61,823千円、「流動負債」の「支払手形」に表示していた1,650,370千円は、「支払手形」705,511千円、「電子記録債務」944,859千円として組替えております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する金銭債権又は金銭債務

区分表示されたもの以外で当該関係会社に対する金銭債権又は金銭債務の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
短期金銭債権	640,888千円	362,416千円
短期金銭債務	310,202	130,149

2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は次のとおりであります。

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
建物	159,700千円	209,546千円
機械及び装置	111,765	102,014
土地	231,211	231,211
投資有価証券	711,260	759,110
合計	1,213,937	1,301,882
上記に対応する債務額		

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
短期借入金	1,230,000千円	1,170,000千円
1年内返済予定の長期借入金	240,000	300,008
長期借入金	545,000	1,126,102
合計	2,015,000	2,596,110

3 前事業年度の末日は銀行休業日ですが、同日満期の手形等については、満期日に決済があったものとして処理しております。前事業年度末日満期手形等は次のとおりであります。

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
受取手形	2,536千円	- 千円
電子記録債権	5,295	-
支払手形	198,881	-
電子記録債務	1,400	-
設備関係支払手形	3,447	-
設備関係電子記録債務	968	-

(損益計算書関係)

1 関係会社との営業取引及び営業取引以外の取引の取引高の総額

	前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
関係会社に対する売上高	1,134,061千円	994,945千円
関係会社からの仕入高	706,275	715,173
関係会社に係る営業取引以外の取引の収益	62,253	64,993

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合

	前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
荷造及び発送費	103,800千円	108,225千円
給料及び手当	313,992	301,863
役員報酬	94,782	98,523
おおよその割合		
販売費	67%	64%
一般管理費	33	36

(有価証券関係)

前事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

子会社株式(貸借対照表計上額787,767千円)は、市場価格のない株式等であります。

当事業年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

子会社株式(貸借対照表計上額787,767千円)は、市場価格のない株式等であります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
繰延税金資産		
税務上の繰越欠損金	1,037千円	- 千円
退職給付引当金	168,612	172,543
棚卸資産評価損	54,687	48,539
賞与引当金	17,239	26,801
その他	61,824	80,969
繰延税金資産小計	303,402	328,854
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	-	-
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	205,945	216,244
評価性引当額小計(注)	205,945	216,244
繰延税金資産合計	97,456	112,610
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	350,679	393,003
繰延税金負債合計	350,679	393,003
繰延税金資産と相殺	97,456	112,610
繰延税金負債の純額	253,223	280,393

(注) 評価性引当額が10,298千円増加しております。この増加の主な内容は、将来減算一時差異等に係る評価性引当額が増加したことによるものであります。

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
法定実効税率	30.5%	30.5%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.7	6.6
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	20.1	8.9
住民税均等割	5.4	1.8
評価性引当額	87.6	1.6
その他	-	0.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率	69.1	31.7

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律（令和7年法律第13号）」が2025年3月31日に国会で成立したことに伴い、2026年4月1日以後開始する事業年度より防衛特別法人税の課税が行われることとなりました。

これに伴い、2026年4月1日に開始する事業年度以後において解消が見込まれる一時差異等に係る繰延税金資産及び繰延税金負債については、法定実効税率を30.5%から31.4%に変更し計算しております。

この税率変更により当事業年度の繰延税金負債の金額が11,264千円増加し、その他有価証券評価差額金が11,264千円減少しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結財務諸表「注記事項（収益認識関係）」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形 固定資産	建物	689,038	145,449	8,038	41,006	785,443	1,639,757
	構築物	41,977	-	507	4,088	37,381	156,317
	機械及び装置	383,591	202,806	3,909	92,542	489,946	2,641,894
	車両運搬具	6,794	1,667	-	2,846	5,615	57,081
	工具、器具及び備品	63,129	10,264	333	23,310	49,750	605,507
	土地	286,354	-	-	-	286,354	-
	リース資産	10,030	-	-	9,278	751	5,692
	建設仮勘定	44,558	328,326	360,188	-	12,696	-
	計	1,525,474	688,515	372,977	173,072	1,667,938	5,106,250
無形 固定資産	電話加入権	5,741	-	-	-	5,741	-
	ソフトウェア	11,833	-	-	3,227	8,605	23,827
	リース資産	3,563	-	-	3,563	-	-
	ソフトウェア仮勘定	188,520	94,740	-	-	283,260	-
	計	209,657	94,740	-	6,791	297,606	23,827

(注) 1 当期増加額のうち主なものは次のとおりです。

機械装置	旋盤	75,110千円
建物	工場屋根改修工事	51,000千円

2 当期減少額のうち主なものは次のとおりです。

機械装置	旋盤	1,859千円
機械装置	マシニングセンタ	1,342千円

【引当金明細表】

科目	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	7,170	300	5,430	2,040
賞与引当金	56,522	87,875	56,522	87,875
役員賞与引当金	-	36,426	-	36,426
受注損失引当金	45,275	-	45,275	-
退職給付引当金	552,829	115,248	116,088	551,988

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載する方法とする。 なお、電子公告は当社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりであります。 https://www.ishiss.co.jp/
株主に対する特典	ありません。

(注) 当会社の単元未満株式を有する株主（実質株主を含む。以下同じ。）は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しています。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類、有価証券報告書の確認書

事業年度 第123期(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日) 2024年6月26日北陸財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書

事業年度 第123期(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日) 2024年6月26日北陸財務局長に提出。

(3) 半期報告書、半期報告書の確認書

第124期中(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日) 2024年11月12日北陸財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書 2024年6月25日北陸財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2025年 6月19日

株式会社石川製作所
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

北陸事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	西	村	大	司
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	南	波	洋	行

< 連結財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社石川製作所の2024年4月1日から2025年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社石川製作所及び連結子会社の2025年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

紙工機械の機台に係る仕掛品の評価について	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>【注記事項】(重要な会計上の見積り) 1. 紙工機械の機台に係る仕掛品の評価及び見積りの内容に記載のとおり、会社は2025年3月31日現在で、連結貸借対照表に仕掛品2,572,043千円を計上しており、これには紙工機械の機台に係る仕掛品525,380千円が含まれる。</p> <p>仕掛品の評価においては、正味売却価額が取得原価よりも下落している場合には、収益性の低下を反映して帳簿価額を切り下げることが求められる。また、正味売却価額は、売価から見積追加製造原価及び見積販売直接経費を控除したものをいう。</p> <p>紙工機械は、価格競争により受注時の見積利益率が低くなる傾向にあり、その後の製造原価の変動によっては正味売却価額が取得原価よりも下落することがある。また、受注から販売までに一定の製造期間を要することから、製造期間における製造原価の見積りには高い不確実性を伴い、決算日における仕掛品に係る見積追加製造原価の算定には経営者の重要な判断が必要となる。さらに、販売先が確定していない仕掛品については、将来の販売先や販売方法を想定した売価、見積追加製造原価及び見積販売直接経費の算定に高い不確実性を伴い、いずれも経営者の重要な判断が必要となる。</p> <p>このように、紙工機械の機台に係る仕掛品の評価には不確実性を伴い、経営者の重要な判断が必要となるため、当監査法人は当該事項を監査上の主要な検討事項とした。</p>	<p>当監査法人は、紙工機械の機台に係る仕掛品の評価を検討するに当たり、主として以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 紙工機械の機台に係る仕掛品の評価に関連する主要な内部統制の整備状況及び運用状況の有効性を評価した。これには、経営者等による査閲及び承認プロセスが含まれる。 棚卸立会及び視察を実施し、紙工機械の機台に係る仕掛品の実在性及び保管状態を確かめた。 製造原価の見積りにおいて考慮されている経営環境の変化や製造過程における課題について、経営者へ質問するとともに、見積追加製造原価に関する社内の討議資料を閲覧した。 製造原価の見積りに含まれる原材料費や人件費単価等の見積りについて、過去実績からの趨勢分析を実施した。 製造原価の見積りプロセスの妥当性を検討し、再計算を実施した。 販売先が確定していない仕掛品については、経営者等が採用した最も合理的な販売先と販売方法を前提とした売価、見積追加製造原価及び見積販売直接経費について経営者と議論した。また、受注活動について社内の記録を閲覧した。 過年度に算定した見積製造原価及び見積販売直接経費とその後の実績を比較することにより、会社の見積りにおける不確実性を評価した。

防衛機器の製造販売に関する履行義務の充足に係る進捗度の見積りについて	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>【注記事項】(重要な会計上の見積り) 2. 防衛機器の製造販売に関する履行義務の充足に係る進捗度の見積りの内容に記載のとおり、連結損益計算書の売上高において一定期間にわたり認識した収益が6,318,605千円計上されており、このうち株式会社石川製作所における防衛機器の製造販売に関する収益は4,175,251千円となっている。</p> <p>会社は、防衛機器の製造販売のうち履行義務が一定の期間にわたり充足されるものについて、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定の期間にわたり認識している。進捗度は、履行義務の充足に使用された原価が契約における取引開始日から履行義務を完全に充足するまでに予想される見積総原価に占める割合により算定されており、見積総原価は、将来の原価を見積ることにより算定される。</p> <p>防衛機器の製造は、見積総原価の算定を行った時点から履行義務を完全に充足するまでの期間が長期にわたり、また、見積総原価の算定には、将来の原材料の購入原価や労務費のほか将来の操業度の予測に基づく固定費の配賦額が含まれていることから、当初想定していなかった原材料価格の変動や操業度の変化による固定費配賦単価の変動等によって、履行義務の充足に係る進捗度の見直しが必要となる場合がある。</p> <p>このように、株式会社石川製作所における防衛機器の製造販売に関する収益は、材料費及び人件費等に関する経営者の判断を伴う重要な仮定に基づいて算定された履行義務の充足に係る進捗度の見積りの影響を受けることから、当監査法人は当該事項を監査上の主要な検討事項とした。</p>	<p>当監査法人は、防衛機器の製造販売に関する履行義務の充足に係る進捗度の見積りを検討するに当たり、主として以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 防衛機器の製造販売に関する履行義務の充足に係る進捗度の見積りに関連する内部統制の整備状況及び運用状況の有効性を評価した。これには、経営者等による査閲及び承認プロセスが含まれる。 防衛機器の製造販売に関する契約内容を理解するために、契約で合意された防衛機器の仕様について、関連帳票の閲覧や営業責任者への質問等により理解し、見積総原価に影響を与える要因が適切に反映されていることを検証した。 見積総原価に含まれている主な原価について、発注書や見積書等の根拠となる証憑との照合を行った。これには防衛機器の製造に関連しない製造原価が集計されていないことの検証が含まれる。また、見積総原価に含まれる原材料価格や加工費の配賦単価等について、過去実績からの趨勢分析を実施した。 見積総原価について、会社の過年度の見積りと製造原価の実績の差額を検証し、会社の見積りの不確実性を評価した。 経営者への質問や関連資料の閲覧等により、見積総原価に影響を与える原材料価格や人件費単価、工場の操業度等の変動についての最新の見通しを把握し、見積総原価の見直しが適切に行われていることを検証した。 製造原価の実際発生額について、製造期間の経過や工程ごとの原価発生を考慮して過去に製造された同種製品の実績との対比を行い、過去の原価発生の態様との乖離について製造責任者への質問や関連資料の閲覧を行うことにより、適切に集計されていることを検証した。 期末日における防衛機器の視察、製造責任者への質問及び関連資料の閲覧により、進捗度の計算との整合性を検証した。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、連結財務諸表の監査を計画し実施する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 内部統制監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社石川製作所の2025年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、株式会社石川製作所が2025年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、内部統制の監査を計画し実施する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

< 報酬関連情報 >

当監査法人及び当監査法人と同一のネットワークに属する者に対する、会社及び子会社の監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬の額は、「提出会社の状況」に含まれるコーポレート・ガバナンスの状況等(3)【監査の状況】に記載されている。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2025年 6 月19日

株式会社石川製作所
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人
北陸事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	西	村	大	司
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	南	波	洋	行

< 財務諸表監査 >
監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社石川製作所の2024年4月1日から2025年3月31日までの第124期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社石川製作所の2025年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

紙工機械の機台に係る仕掛品の評価について
連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項(紙工機械の機台に係る仕掛品の評価について)と同一内容であるため、記載を省略している。

防衛機器の製造販売に関する履行義務の充足に係る進捗度の見積りについて
連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項(防衛機器の製造販売に関する履行義務の充足に係る進捗度の見積りについて)と同一内容であるため、記載を省略している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 報酬関連情報 >

報酬関連情報は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) １．上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
２．XBRLデータは監査の対象には含まれていません。